

豊浦町観光振興計画

平成 31(2019)年 2 月

令和 6(2024)年 3 月改定

北海道豊浦町

目次

I 計画の前提条件	1
1. 計画の位置づけ	2
1-1 計画策定の背景と目的.....	2
1-2 計画期間	2
1-3 計画策定の進め方.....	2
1-4 計画策定のフロー.....	3
1-5 計画の改定について	4
2. 豊浦町の概要	4
2-1 位置・地勢.....	4
2-2 気 候.....	4
2-3 人 口.....	5
2-4 産 業.....	5
3. 豊浦町における観光振興の意義	6
3-1 豊浦町における観光振興の意義.....	6
(1) 観光の定義	6
(2) 豊浦町における観光推進の意義.....	7
(3) 豊浦町における観光客の位置づけ	7
3-2 豊浦町民の観光振興に対する意識	8
(1) 町民の観光振興に対する意識.....	8
(2) 町民が期待する観光振興施策.....	9
II 豊浦町観光の現状分析	10
1. 最近の北海道観光の動向	11
1-1 観光客の推移	11
1-2 道央圏の観光客入込状況.....	12
1-3 豊浦町及び隣接地域の観光客動向	12
1-4 外国人観光客の動向	13
2. 豊浦町の観光の現状と課題.....	14
2-1 豊浦町観光の現状.....	14
(1) 観光客の動向.....	14

(2) 観光資源の現状と特性	17
(3) 観光立地特性.....	23
2-2 観光振興の課題	24
<課題1> 楽しむ場の充実による通過・立ち寄り型観光からの脱却	24
<課題2> 豊浦町の特産品の付加価値向上と観光客との接点の創出	24
<課題3> 観光を支える産業基盤の強化と地域経済の活性化	24
<課題4> 魅力的な農村、漁村、市街地の整備	25
III 観光振興の基本方針	27
1. 豊浦町観光の目指すもの	28
<目標1> 噴火湾の恵みを楽しむ「食」の拠点づくり	28
<目標2> 豊浦の海と山野を活用したアウトドア拠点の充実	28
<目標3> 農村と漁村の魅力を伝える体験型観光の充実.....	28
<目標4> 魅力ある市街地整備.....	28
<目標5> 観光推進基盤の強化と財源の確保.....	28
2. 豊浦町における観光地づくりの基本施策.....	30
IV 観光振興基本計画.....	32
1. 豊浦町「食」の拠点開発	33
1-1 道の駅の充実.....	33
1-2 町内食の情報発信.....	35
1-3 豊浦の生産物を活用した多様な加工品開発.....	37
2. アウトドア拠点の充実	39
2-1 豊浦海浜公園の充実.....	39
2-2 礼文華海浜公園の充実	39
2-3 小幌地区周辺整備	39
(1) 既存事業の継続・発展	39
(2) 日本一の秘境駅「小幌駅」と礼文華地区における山道、林道の整備	40
3. 豊浦体験型観光の推進	41
3-1 いちごをテーマとした地域産業連携拠点施設の活用.....	41
3-2 漁業体験プログラムの開発.....	42
(1) 既存事業の継承・発展	42

4. 魅力ある市街地整備	43
4-1 中心市街地の魅力づくり	43
(1) 美しい花と緑の景観の維持	44
(2) しおさい通りをアピールする新たなイベントの開発	44
4-2 アクセスの改善と歩いて楽しめるまちづくり	45
(1) 市街地への案内看板の整備	45
(2) 豊浦海浜公園を起点とした歩く道の整備	45
5. 観光推進基盤の強化	49
5-1 広域連携の推進	49
(1) ジオツーリズムの推進	49
(2) 噴火湾沿岸市町村の広域連携の推進	49
5-2 事業推進体制の強化と財源の確保	49
(1) 住民の観光振興に向けての理解促進	49
(2) おもてなしの心（ホスピタリティ）の向上	50
(3) 着地型観光の推進	50
(4) 新しい観光財源の確保について検討	51
6. 事業推進計画	51
6-1 事業実施スケジュールと事業主体	51
6-2 計画の管理	51
関 連 資 料	
資料1. 豊浦町の観光振興に関するアンケート調査	- 1 -
資料2. とようらいちご豚肉まつり参加者アンケート調査	- 17 -

I 計画の前提条件

1. 計画の位置づけ

1-1 計画策定の背景と目的

近年、訪日観光客の急増など、我が国における観光の状況は大きく変化しており、豊浦町においても、そうした変化に対応できる新たな観光の展開が求められている。

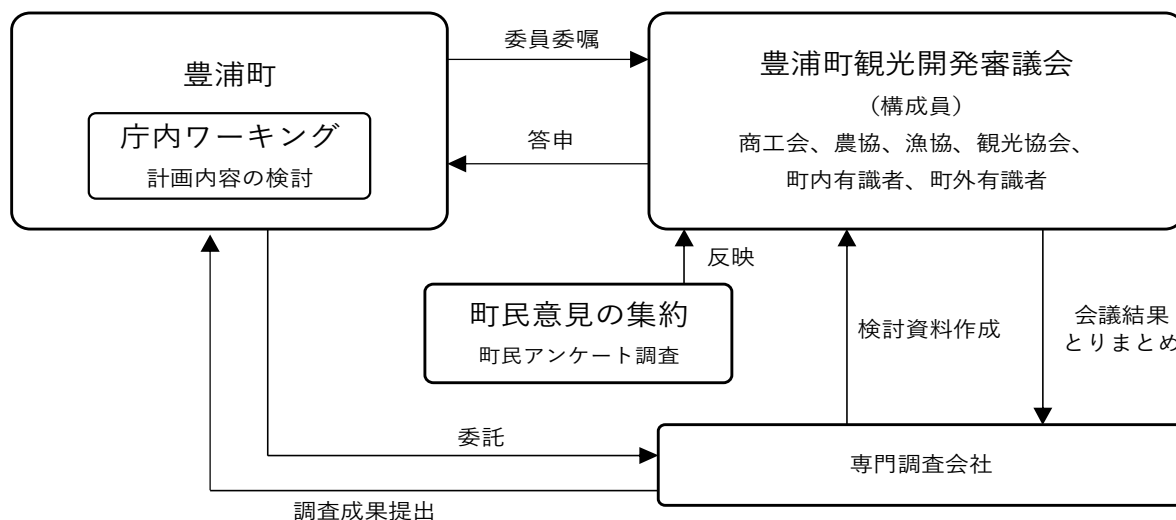
このため、豊浦町では、平成30年度からスタートした「第6次豊浦町総合計画」の個別分野計画として、近年の観光の現状とともに、地域資源の魅力や課題を客観的また専門的な観点から整理し、今後の豊浦町観光の方向性や目指すべき将来像を定めた「豊浦町観光振興計画」を策定し、本町における観光事業の計画的な推進を図ることとする。

1-2 計画期間

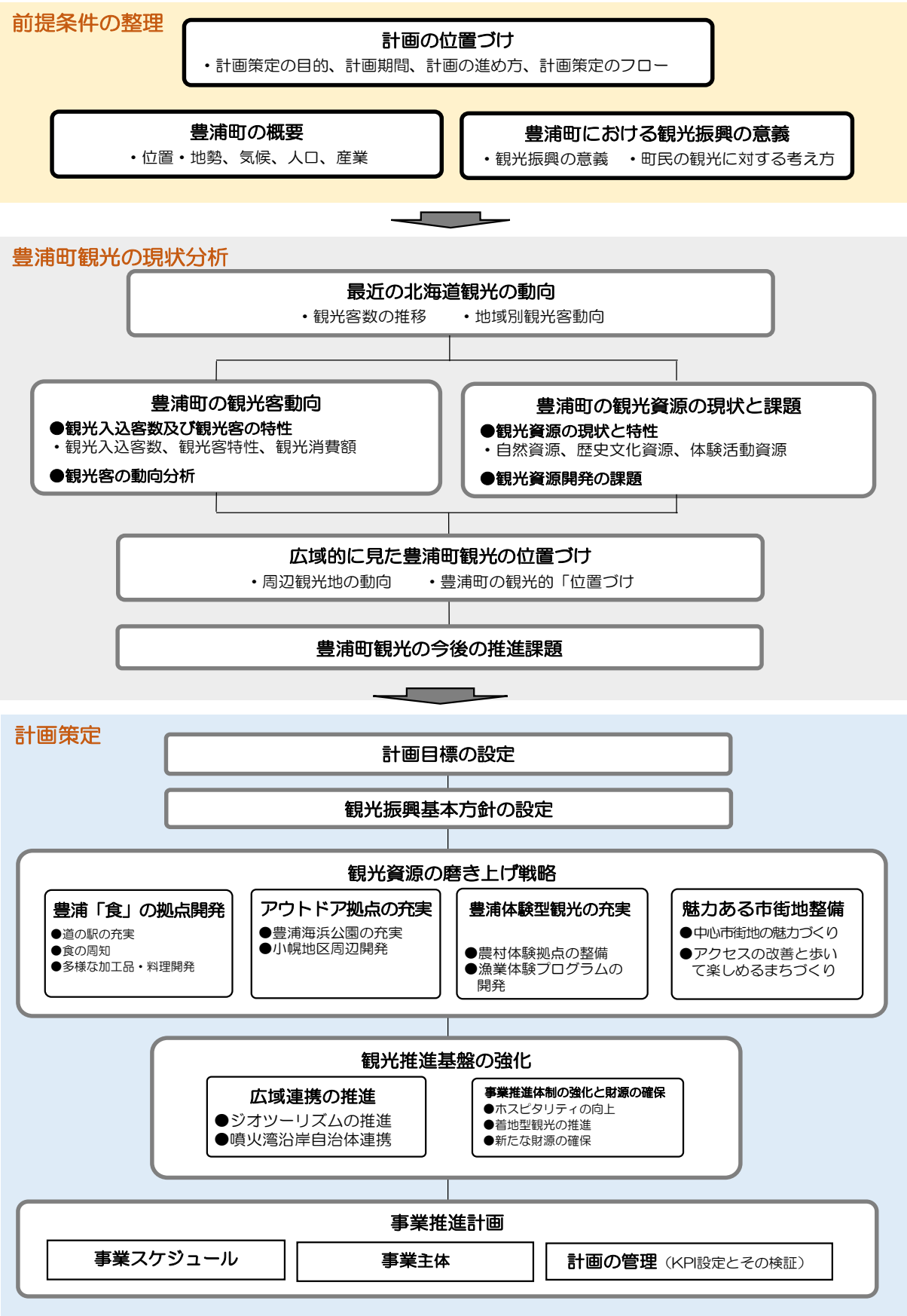
本計画は、今後10年間を見通した、豊浦町の観光振興の基本方向と重点事業、またその全体スケジュール等を示した基本計画としての性格を持つものであり、可能な限り計画に沿った事業実現が期待される。ただし、観光を取り巻く社会状況は日々変化しているため、今後適宜計画の見直しを行い、必要な修正を加えつつ計画の実現を目指すものとする。

1-3 計画策定の進め方

計画策定に当たっては、豊浦町観光開発審議会を設置し、町内外の有識者の意見を集約するとともに、町民アンケート調査を実施し、豊浦町民の観光振興に対する意向を反映するものとする。また、計画の取りまとめは、専門会社に委託するとともに役場内に計画策定ワーキンググループを編成し行う。



1-4 計画策定のフロー



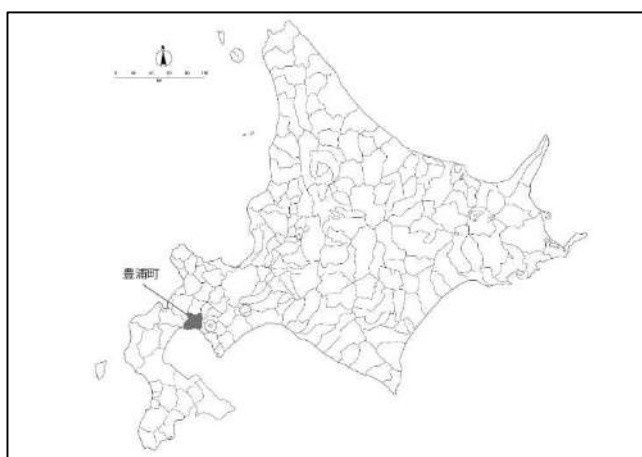
1-5 計画の改定について

本計画の計画期間は、令和元年度から令和10年度までの10年計画としており、適宜計画の見直しを行い、必要な修正を加えつつ計画の実現を目指すこととしていた。そのため、観光を取り巻く情勢にも変化が生じていることから、後期の開始に当たり、これまで実施してきた施策・事業を振り返り、「豊浦町観光振興計画」を令和6年3月に改定することとした。

2. 豊浦町の概要

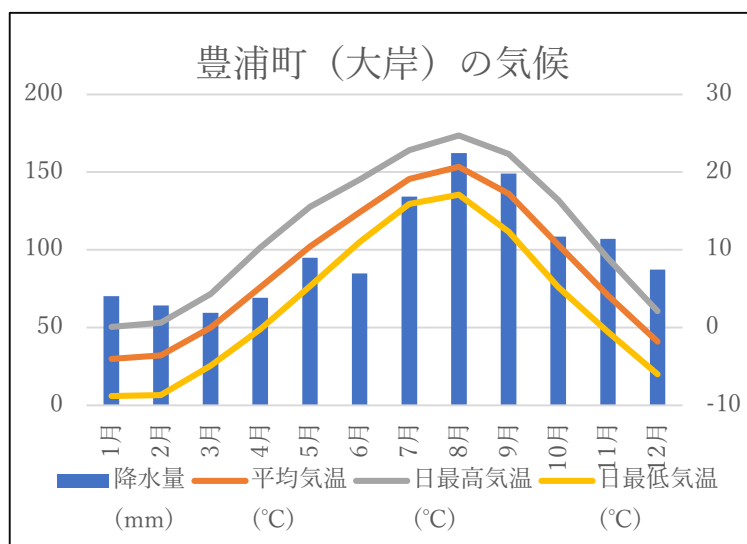
2-1 位置・地勢

豊浦町は、胆振管内の西端に位置する農業、漁業を基幹産業とする町で、南は噴火湾、北はニセコ地域、東は洞爺湖に接している。町全体が噴火湾に向かって緩く傾斜した丘陵地であり、その大半が森林地帯である。また、噴火湾に面した西側の海岸線は断崖絶壁が続き、優れた景観地となっている。



2-2 気候

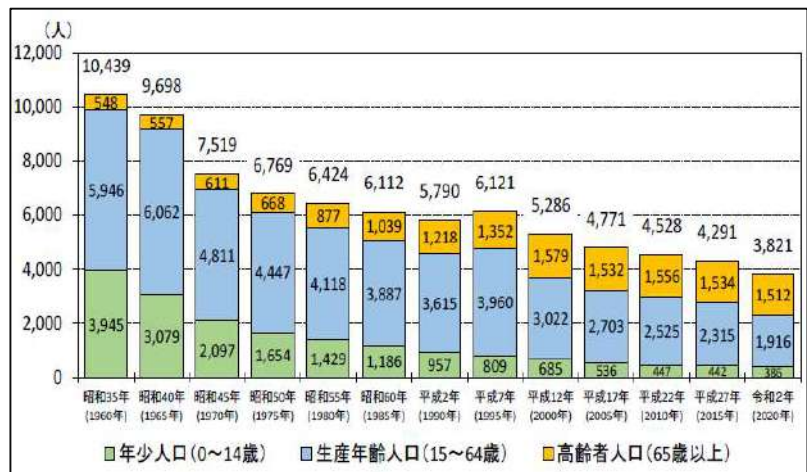
豊浦町は、対馬海流（暖流）の影響を強く受け、夏は涼しく冬は温暖であるが、冬期間の積雪は比較的少なくなっている。



〈資料〉気象庁統計（統計期間1991年～2020年）

2-3 人 口

令和5年6月30日現在の豊浦町の人口は3,591人（住民基本台帳）で、うち65歳以上の高齢人口は1,366人と全体の38.1%を占めている。豊浦町の人口は毎年減り続けており、30年前と比べると、生産人口はほぼ半減している。



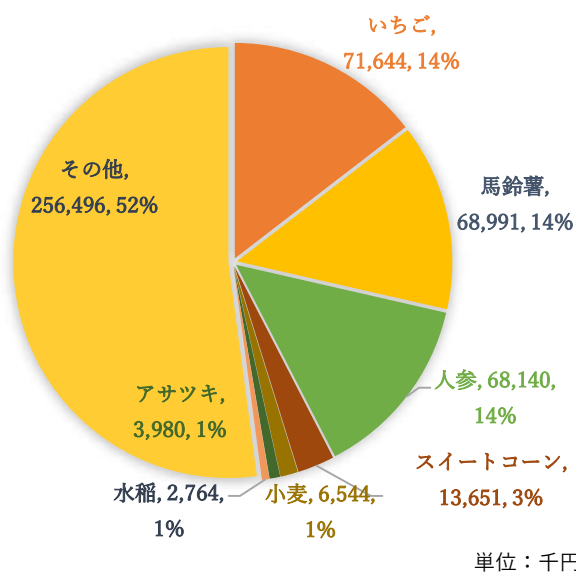
〈資料〉総務省「国勢調査」（総人口は年齢不詳を含む）

2-4 産 業

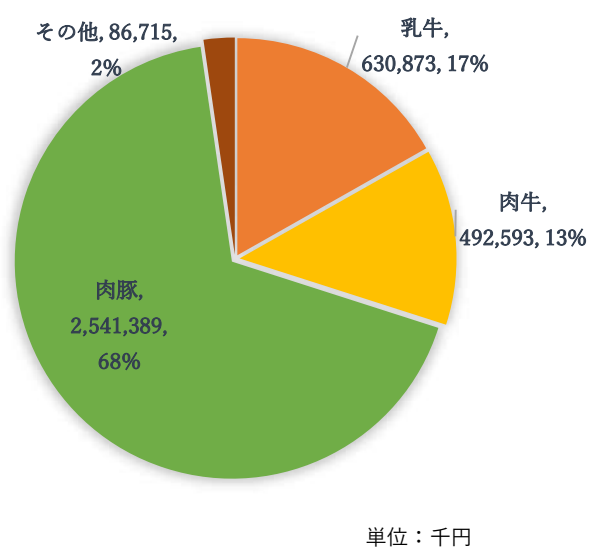
農業は水稻、馬鈴薯、いちごなどの他に、乳牛、肉牛、豚の生産が盛んである。農業では特産の「豊浦いちご」と「豊浦ポーク」が有名で、毎年6月には、それらをテーマにした「いちご豚肉まつり」が開催され、多くの観光客を集めている。

水産業では、ホタテの養殖、サケ、カレイ漁などを主とし、アワビの種苗放流など育てる漁業にも力をそそいでいる。中でもホタテは有名で、噴火湾は日本に数あるホタテの産地の中でも栄養環境が整った日本一のホタテの養殖産地といわれる。豊浦町はそのホタテ養殖の先駆けとなった町として知られる。

令和4年度 農産物別販売実績

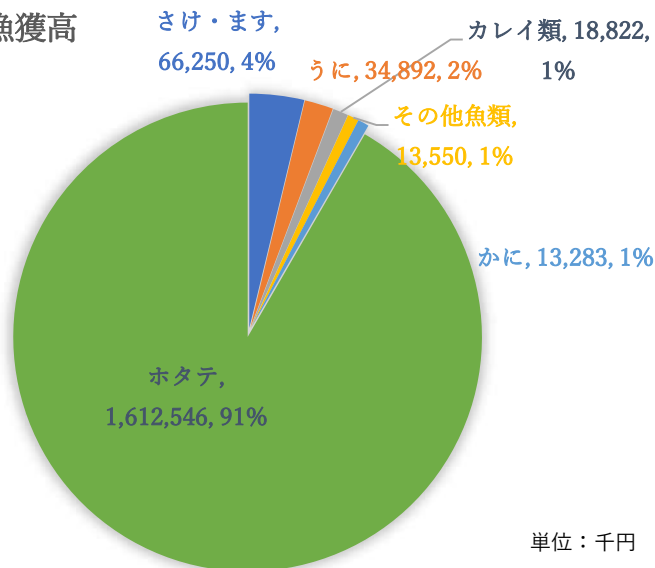


令和4年度 畜産物別販売実績



「令和4年度農畜産物販売実績」豊浦町調べ

令和4年度魚種別漁獲高



「令和4年度主要魚種漁獲量」豊浦町調べ

3. 豊浦町における観光振興の意義

3-1 豊浦町における観光振興の意義

(1) 観光の定義

“観光”の語源は、易経の「観国之光、利用賓干王。(国の光を観るは、もって王に賓たるによるし)」に基づくといわれる。すなわち、地域の風景、風俗、習慣などを見たり、体験したりすることによって、自己を啓発し、あわせて文化の交流・発展に寄与するものである。

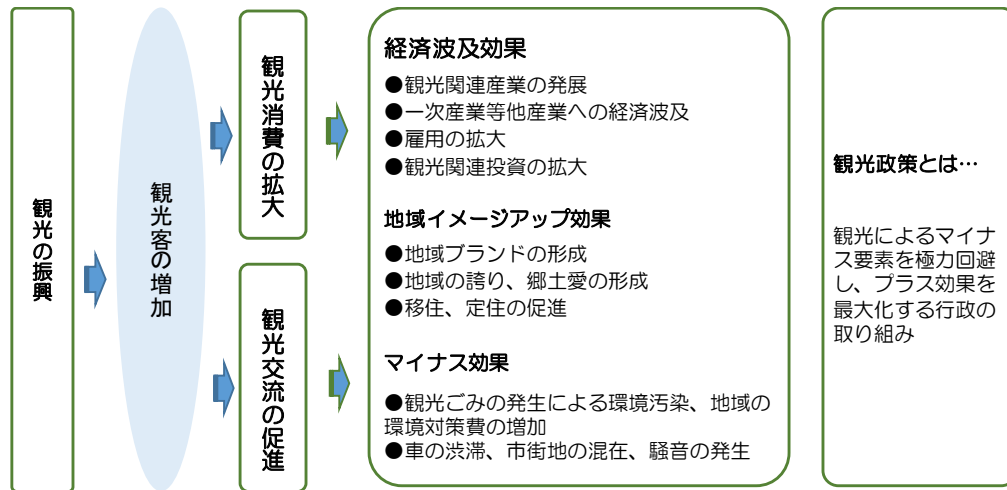
これを地域の側からとらえると、観光事業とは、地域が誇りにする自然や歴史文化、産業、特産品などを来訪者に示すとともに来訪者との交流を通じて、地域にとって何らかの経済的・文化的な恩恵を得る事業といえる。

以上の定義を踏まえ、観光振興の意義を整理すると以下の点が指摘できる。

- ・直接的な観光収入によりホテル・旅館等の観光産業や飲食店、商店等が潤う
- ・観光事業が調達する原材料仕入れなどにより一次産業等の関連産業が潤う
- ・上記の関連から新たな雇用が創出される
- ・観光事業のすそ野が広がることで関連事業の立地や誘致が進むなど、新たな投資が発生する
- ・観光客による地域の認知や理解が向上し、これにより地域のイメージアップが図られ、地域特産物等の消費が拡大する。地域ブランド化につながる。
- ・地域のイメージアップに伴い、郷土愛が芽生えるとともに、外部からも新たな人材の流入、定住が期待される。

ただし、観光の推進により、地域にとってマイナスの効果をもたらすこともある。この点も十分認識することが必要である。

観光振興による地域への影響・効果



(2) 豊浦町における観光推進の意義

観光の振興とは、単に多くの観光客を誘致することが目的ではなく、いかに観光客の満足度を高め、その結果地域における経済的・社会的恩恵を最大化することである。すなわち、海水浴場やキャンプ場に多くの観光客が訪れても、地域内でほとんど消費をせず、ゴミだけを落としていくなれば、その収支はマイナスで、結果、観光を振興する必要性はないともいえる。

観光による経済効果の基本は、単純化すれば、 $\text{＜訪問者数} \times \text{一人当たり消費額＞}$ である。そのため、多くの観光客を誘致することはもちろん必要であるが、それとあわせて観光客が豊浦町に満足することで、町内でたくさんの消費をし、さらにその消費が地域内を循環し、様々な経済効果を生むことが重要である。つまり、観光客にとっても地域にとってもウィンウィンの状況をつくることこそが、観光振興の大きな目的となる。

その意味で、今回の計画策定にあたっては、豊浦町の経済的側面に重点を置いた観光の役割を重視しているが、観光の振興は、一方で地域に対する郷土愛や誇りを抱かせ、それが住民の町づくりを進める力ともなる。観光地としての魅力は、単に優れた観光資源の存在だけでなく、そこに住んでいる人たちがいかに自らの街を誇りにし、魅力的で住みやすい街を築いてきたかによる。このようなまちづくりの観点も含め、豊浦町の観光を考えることが必要である。

(3) 豊浦町における観光客の位置づけ

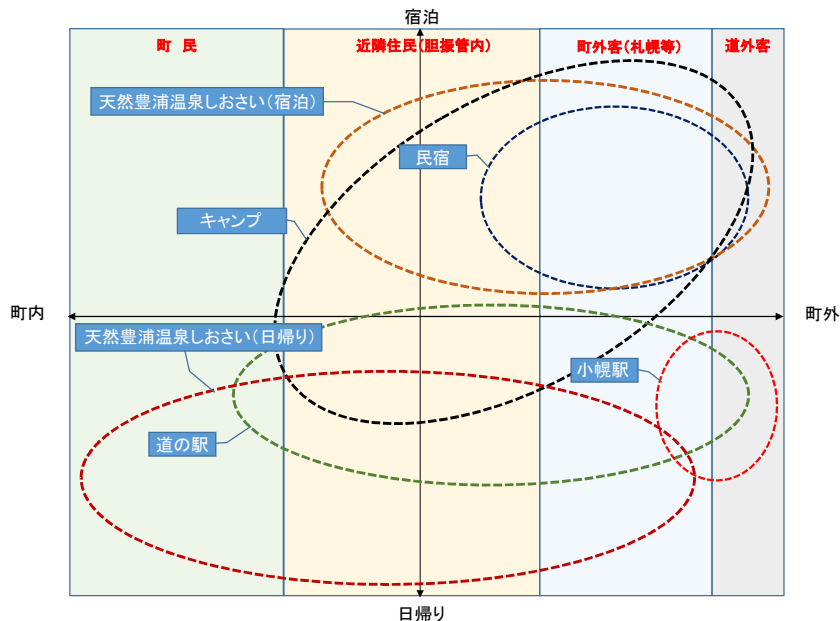
以上のことから、豊浦町で考える観光客とは、「地域内の観光施設等を利用し、地域に経済的な恩恵を直接・間接的にもたらしてくれる地域外からの訪問者」と定義したい。

その場合、ビジネスなど観光以外の目的で訪問する人たちは、本来的には観光客と呼べないが、厳密に区別することが困難なため、あえて除外せず、一定の観光的消費（飲食、土産品購入）をする人たちはみな観光客と呼ぶことにする。

なお、前期計画策定時、豊浦町を訪れている観光客を下図のように区分した。これらの整理から、豊浦町の観光は、以下のような人たちが顧客であり、今後の重要なターゲットになる人たちといえる。

- ・札幌をはじめ道内外から団体や家族で宿泊し、多くの消費をしてくれる観光客
- ・1回の消費額は多くはないが、繰り返し訪問(温泉・道の駅)してくれる豊浦ファン
- ・毎年繰り返し訪れるキャンプ愛好家で、滞在中町内で商品等を購入してくれる人たち
- ・豊浦町の物産購入を目当てに定期的に訪れる札幌・函館・室蘭などからの人たち

豊浦町の観光客区分(居住地×宿泊・日帰り)



3-2 豊浦町民の観光振興に対する意識

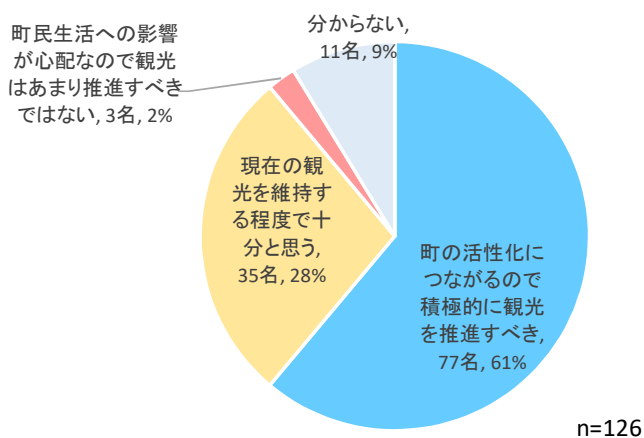
(1) 町民の観光振興に対する意識

前期計画の策定にあたり、豊浦町民を対象に豊浦町の観光に対する意識を把握するアンケート調査を行った。その結果は、以下に示す通り、約6割の町民が観光の積極的な推進を期待していることが分かった。また、観光に期待する効果を尋ねると、その多くが地域経済の活性化を期待していることが分かった。

ただし、その一方で、地元で買い物する場がないなど、住民生活面で早急に改善すべき点も指摘され、観光振興よりも生活環境整備の必要性を指摘する住民が多かったことが特筆される。

これらのことから、豊浦町の観光の振興は、経済的な恩恵が地域にもたらされる一方で、快適なまちづくりにつながるものでなければならないことが改めて確認された。

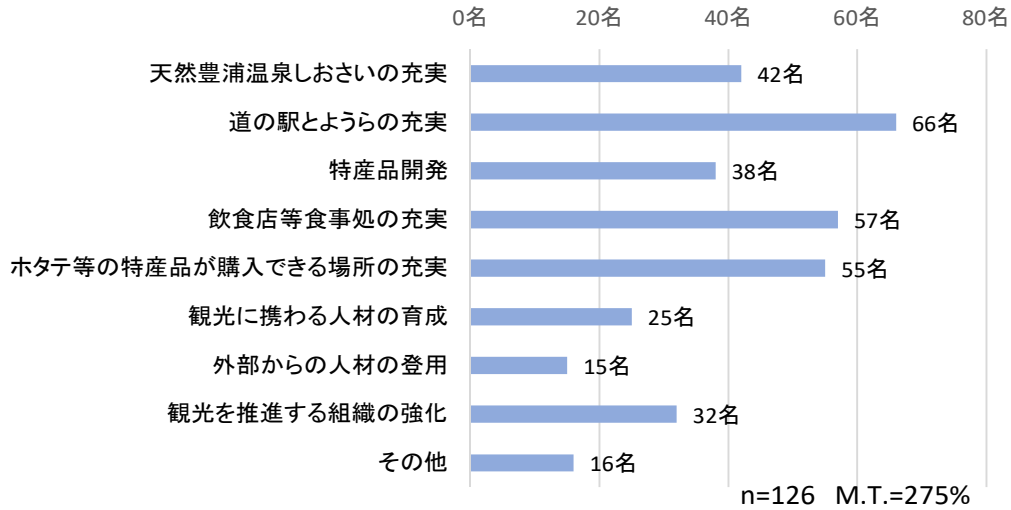
豊浦町の観光をどう思うか？



(2) 町民が期待する観光振興施策

また、アンケート結果から、今後豊浦町が重視すべき観光施策を聞いたところ、次のように、多くの町民から道の駅の充実や食事場所の充実が挙げられた。全体を通してみると、豊浦町の多様な食材を活用した観光の振興が重要との指摘が多かった。

豊浦町の観光に必要な取り組みとは？



II 豊浦町観光の現状分析

1. 最近の北海道観光の動向

1-1 観光客の推移

北海道観光入込客数調査報告書（令和4年度）によると、令和4年度の北海道の観光客総数（延べ人数）は、1億2,230万人で、前年度に比べて43.4%増加し、コロナ前の令和元年度に比べると15.0%減少し、宿泊客延べ数の合計は、3,199万人泊で、前年度に比べて71.7%増加しましたが、令和元年度に比べて11.6%減少したと報告されている。

これを圏域別にみると、下記のとおり、いずれも増加している。

令和4年度 圏域別観光入込客数（延べ人数）

圏域	観光入込客数	前年度比	対前年増減数	R元年度比	対R元年度増減	構成比
道央	6,596万人	+45.5%	+2,062万人	▲16.4%	▲1,298万人	53.9%
道南	1,136万人	+29.7%	+260万人	▲14.0%	▲186万人	9.3%
道北	1,912万人	+53.9%	+669万人	▲15.4%	▲348万人	15.6%
オホーツク	808万人	+33.9%	+205万人	▲7.7%	▲67万人	6.6%
十勝	1,029万人	+44.7%	+318万人	+0.2%	+2万人	8.4%
釧路・根室	749万人	+32.8%	+185万人	▲25.9%	▲262万人	6.1%
合計	12,230万人	+43.4%	+3,699万人	▲15.0%	▲2,158万人	100.0%

各圏域の観光入込客数の特徴

道央圏	3年ぶりにリアル開催した雪まつり（札幌市）やガーデンフェスタ北海道（恵庭市）など大型イベントの実施や各地での主要イベントの再開、管内スキーリゾートへの旅行者の増加、「サッポロ割り」など旅行支援事業の実施などにより、観光客の入込が好調であったことから、圏域では前年度比45.5%増となりました。
道南圏	函館江差自動車道木古内IC開通に伴う周辺「道の駅」への来場者増加や、江差追分全国大会（江差町）、マクロまつり（松前町）、もりまち桜まつり（森町）など各種イベントの再開、「はこだて割り」等旅行支援の実施など、観光客の入込が好調であったことから、圏域では前年度比29.7%増となりました。
道北圏	アウトドアブームによる管内キャンプ場の入込客数の増加や野外イベントの再開前年度閉鎖していた管内全ての海水浴場の開設（留萌管内）、バスを利用した団体ツアーの受入拡大など、観光客の入込が好調であったことから、圏域では前年度比53.9%増となりました。
オホーツク圏	知床沖海難事故の影響により、観光入込に影響があったものの、各地で観光イベントが開催されたことや、女満別空港（大空町）の利用状況が対前年度対比で56.8%増加、紋別空港（紋別市）も37.4%増加したことから、圏域では前年度比33.9%増となりました。
十勝圏	昨年度まで中止していたイベントやスポーツ大会が通常開催されたことや、令和4年4月にリニューアルオープンした「道の駅おとふけ」や隣接施設による観光客の入込が好調だったことなどから圏域では前年比44.7%増となりました。
釧路・根室圏	知床沖海難事故の影響により一部、観光入込に影響があったものの、3年ぶりに開催した牡蠣まつり（厚岸町）など各種イベントの再開や、4月に「まちの駅サーモンプラザ」がオープンするなど、観光客の入込が好調であったことから、圏域では前年度比32.8%増となりました。

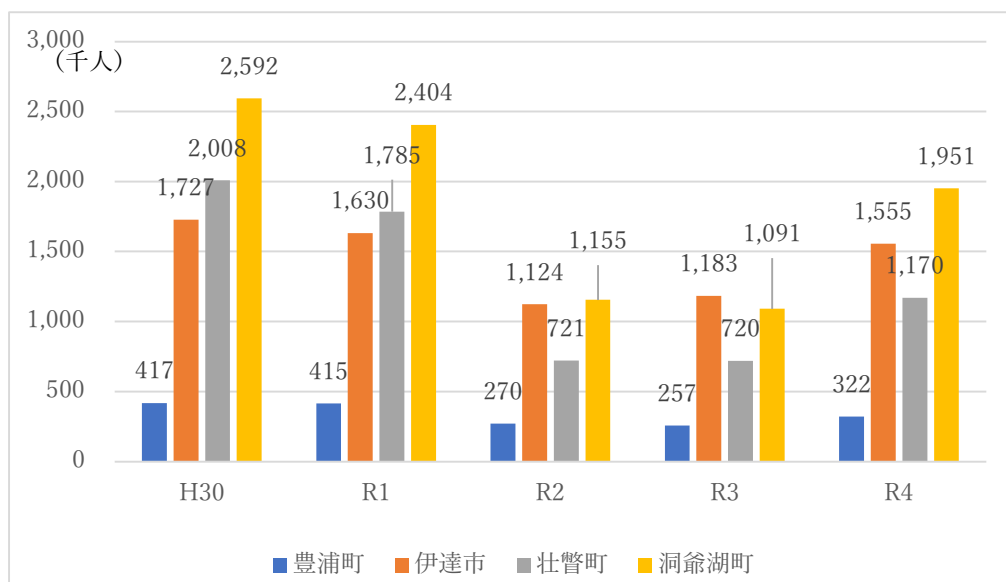
（出典）北海道経済部観光局観光振興課「令和4年度北海道観光入込客数調査報告書」令和5年9月

1-2 道央圏の観光客入込状況

道央圏の観光入込状況を見ると、札幌市が1,311万人と最も多く、次に函館市455万人、旭川市414万人、以下小樽市、釧路市、音更町の順となっています。ただし、洞爺湖地域（洞爺湖町195万人、壮瞥町156万人、伊達市117万人）を一観光地とみると、全体で約468万人もの観光客が訪れており、函館市と肩を並べる大観光地となっている。

1-3 豊浦町及び隣接地域の観光客動向

豊浦町、伊達市、壮瞥町、洞爺湖町の過去5年間の観光客数の推移は以下のとおりである。各地域とも、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、令和4年度には回復傾向となっており、令和5年度以降の観光客数の完全回復、さらなる入込増に期待がかかる。

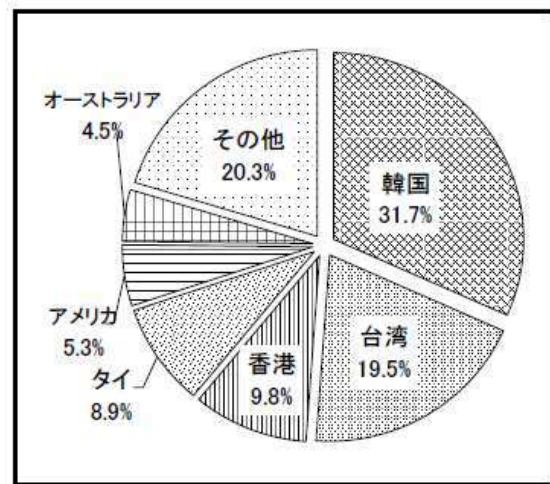


(出典) 北海道経済部観光局観光振興課「令和4年度北海道観光入込客数調査報告書」令和5年9月

1-4 外国人観光客の動向

訪日外国人来道者については、新型コロナウイルス感染症の影響で強化されていた国の水際対策が段階的に緩和され、令和4年6月には添乗員付きツアーの国内受入が開始し、10月からは個人旅行の受入や査証免除措置の再開のほか、海外からの本道への直行便が徐々に再開したことにより、令和4年度は約69万人になりました。国・地域別で見ると、韓国が21万8,900人と最も多く、次いで、台湾が13万4,400人、香港が6万7,800人、タイが6万1,700人、アメリカが3万6,600人、オーストラリアが3万900人となっています。こちらもコロナ禍前の平成30年度の312万人には遠く及ばない状況ですが、直行便の再開、運航数の増便、復便も進んでおり、令和5年度以降の回復が見込まれます。

圏域	観光入込客数
韓国	218,900人
台湾	134,400人
香港	67,800人
タイ	61,700人
アメリカ	36,600人
オーストラリア	30,900人
その他	139,700人
合計	690,000人



(出典) 北海道経済部観光局観光振興課「令和4年度北海道観光入込客数調査報告書」令和5年9月

2. 豊浦町の観光の現状と課題

2-1 豊浦町観光の現状

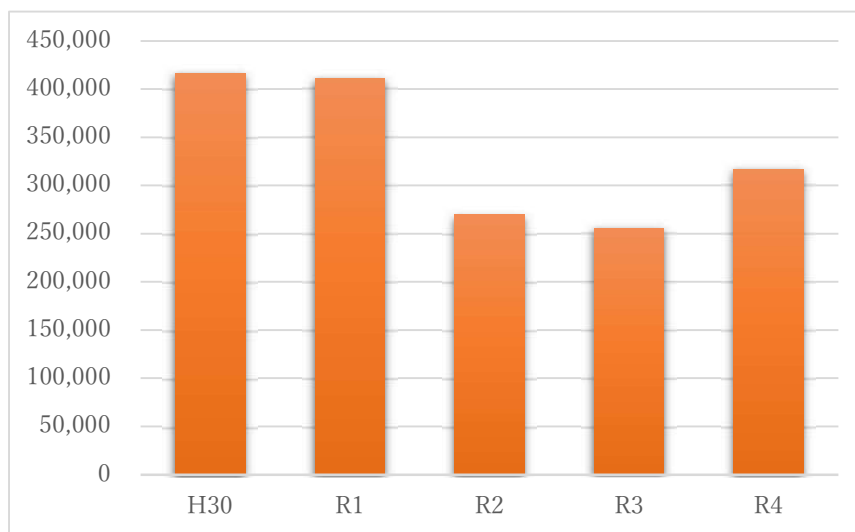
(1) 観光客の動向

①観光客数とその内訳

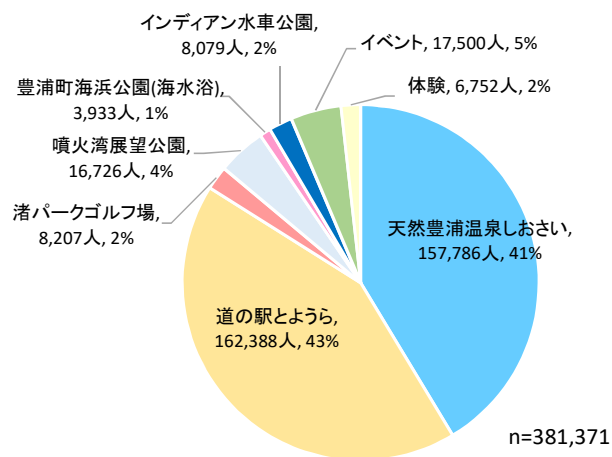
令和4年度の豊浦町の観光客総数は316,478人で、対前年度比123.8%と増加となった。新型コロナウイルス感染症の影響から、令和2年度以降大幅に入込が減少していたが、回復傾向にあることが伺える。

その内訳は、全体の94%が日帰り客で、6%が宿泊客となっている。日帰り客の内訳では、天然豊浦温泉しおさい及び道の駅利用者で日帰り客全体の92%を占めており、豊浦町観光におけるこの2施設の存在の大きさが理解できる。また、宿泊客に関しては、宿泊客全体の約68%がキャンプ場利用者となっているのが特徴といえる。

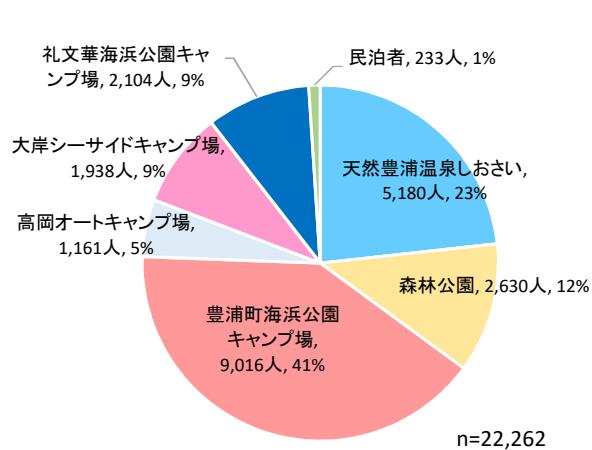
観光入込客数推移（直近5年間）



日帰り客内訳（H29年度※コロナ禍前の参考）



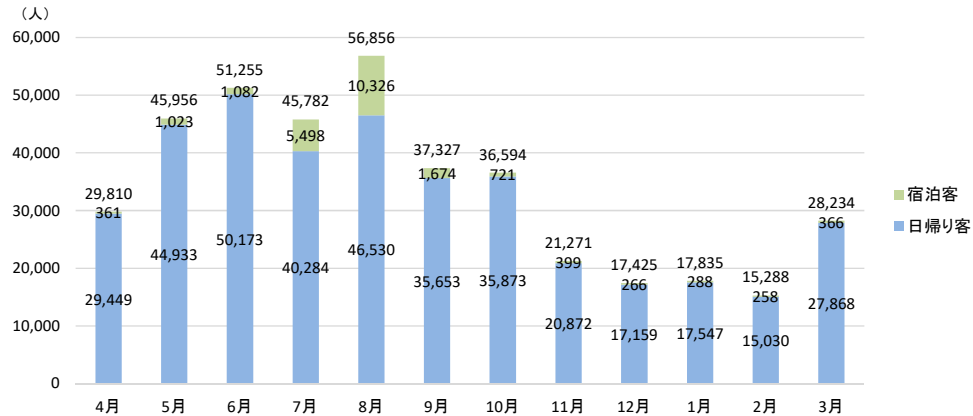
宿泊客内訳（H29年度※コロナ禍前の参考）



②観光客の月別動向

豊浦町の観光のピークは、海水浴やキャンプシーズンである7月、8月だけでなく、新緑やいちごの季節である5月から6月にもピークがあり、比較的観光シーズンが長いのが特徴である。しかし、冬期の施設が乏しいことなどから、冬期間の観光客は大きく減少している。

月別観光客入数動向（H29 年度※コロナ禍前の参考）



③豊浦町観光客入込数

(資料) 豊浦町

観光施設	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
天然豊浦温泉しおさい(入館)	162,930	160,513	103,780	94,574	128,012
宿泊者数(内数)	4,808	4,444	2,199	1,897	5,596
森林公園	2,775	1,966	195	0	2,600
豊浦町海浜公園(キャンプ)	8,875	10,755	45	0	3,356
高岡オートキャンプ場	1,254	1,506	0	0	644
大岸シーサイドキャンプ場	1,800	2,270	0	50	2,570
礼文華海浜公園キャンプ場	2,726	2,451	0	0	2,735
道の駅とようら	169,104	167,547	138,018	133,662	153,839
渚パークゴルフ場	6,796	6,006	4,622	3,282	3,913
噴火湾展望公園	15,117	16,384	13,399	13,703	15,647
豊浦町海浜公園(海水浴)	4,306	1,563	0	0	1,553
地盤産物販売加工施設	5,150	10,682	8,668	9,048	0
昆布岳	845	973	930	885	907
計	381,678	382,616	269,462	255,204	315,776
宿泊者数(内数)	22,029	23,392	2,244	1,947	17,501

イベント等	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
いちご豚肉まつり	25,000	26,000	0	0	0
まるごと豊浦・北の収穫祭	5,500	0	0	304	264
その他	4,485	2,085	0	52	438
計	34,985	28,085	0	356	702

合 計	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
観光入込客数計	416,663	410,701	269,462	255,560	316,478
宿泊者数(内数)	22,029	23,392	2,436	1,947	17,501

④観光客の特性

平成29年度に「道の駅とようら」「豊浦海浜公園キャンプ場ほか4か所」「天然とようら温泉しおさい」で実施した観光客アンケート結果より、豊浦町を訪れる観光客の特性を整理すると以下のようになる。

調査項目	道の駅とようら	豊浦海浜公園キャンプ場ほか4か所	天然豊浦温泉しおさい、民宿
入込数 (H24-28)	<ul style="list-style-type: none"> ・レジの通過者数は平成 27 年度を除いて、年々増加 ・平成 28 年度のレジ通過者は、平成 24 年度の 124.9% 増 ・本調査で実施した入場車両調査から、年間入館者数は、50 万 5 千人、年間入場車両は、29 万 5 千台と推測 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度の利用者数は、16,556 人で、平成 24 年度の 118.8% 増 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度の入館者数は、平成 24 年度比で 112.5% 増、宿泊客は、137.5% 増と入館者の伸びを上回る ・平成 28 年度の入館者総数 16 万 4,787 人のうち宿泊客 5,512 人、福祉割引での入館者、回数券利用の入館者を差し引くと 102,248 人
中心的利用者層	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢構成に大きな偏りはない ・旅行形態は、家族（子供連れ）と夫婦・パートナーがほぼ同率で 3 割超同行人数は、1 人と 2 人の合計が、約 6 割 	<ul style="list-style-type: none"> ・30 代～40 代の家族（子供連れ）、友人・知人が多く、同行人数も多人数 	<ul style="list-style-type: none"> ・性別、年齢構成に偏りが少ない ・同行者は、家族（子供連れ）、夫婦・パートナー、自分ひとりの順で、同行人数も比較的多人数
居住地（来訪先）	<ul style="list-style-type: none"> ・道外客が 16%、道内は、84% ・道内は、札幌（石狩）、函館（渡島）に続いて、近郊の胆振の順、道外は、関東、東北、関西の順 	<ul style="list-style-type: none"> ・石狩管内が 50% と多く、近郊の胆振からは 39% 	<ul style="list-style-type: none"> ・道外からの来訪が 18% と高い ・道内客は近郊の胆振管内からの来訪が 56% と高く、石狩管内が 36%
利用頻度・リピーター率	<ul style="list-style-type: none"> ・日帰りが 95% と圧倒的に多く、町内への回遊は少ない ・訪問回数 5 回以上が 6 割を超え、リピーター率は高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 泊キャンプが 67%、日帰りのキャンプは 17% ・連泊率も高い ・キャンプ場利用は初めてが 3 割となっている ・リピーター化の余地が残されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊浦町への訪問回数はリピーターの占める率が 77% ・宿泊は初めてが 50% とリピーターとなる可能性は高い
満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の満足度は高いが、お土産品の満足度は低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観（自然景観）、海水浴場、天然豊浦温泉しおさいに対する満足度がかなり高い ・食事（昼食など）、土産品に対する満足度は低い ・キャンプ場そのものに対して満足度は、「非常に満足」が 71.2% と高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・天然豊浦温泉しおさい、民宿に対する満足度は高い ・土産品、食事（昼食など）において感動を与えるほどの満足度に至っていない
再訪意向	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず来たいが 12% と低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず来たいが 61%、来たいが 35% で、合計 96% と驚異的な数値 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず来たいが 39%、来たいが 54% と、再訪意向は高い

観光資源などの認知度と来訪意向	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品のいちご、ホタテ、内藤大助選手以外の認知度は低い ・いちご豚肉まつりの来訪意向が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場はもちろんだが、そのほかの施設やイベントにおいても認知度が高い ・すべての施設やイベントへの訪問意向が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場の認知度がやや低い、そのほかの施設やイベントにおいては認知度が高い
-----------------	---	--	---

(2) 観光資源の現状と特性

現在の豊浦町観光を支えている観光資源は、美しい海岸線や海浜公園、海岸キャンプ場など海に関わるものが多いが、それとあわせて温泉や豊かな農・水産物も重要な観光資源となっている。以下、7つの側面から豊浦町の観光資源の特性を整理した。

・穏やかな海と美しい海岸景観

豊浦町の最大の魅力はやはり海が存在にあり、穏やかな噴火湾の海は、荒々しい日本海や太平洋の海と比べ心休まる環境を持っている。また、海岸近くまで山が迫る地形があるなど、豊浦町の海岸景観は変化に富み、昔から文人・歌人の歌に詠まれるなど、その景観美が評価されている。

・縄文遺跡やチャシなど古代から人々が住んでいた痕跡

噴火湾一帯から多くの縄文遺跡やアイヌ文化期の遺跡であるチャシ跡などが発掘されており、この地域は古来より人々が暮らしてきた地域であることを物語っている。そうした歴史的な資源の存在もこの地域の特性として注目される。

・秘境ファン、鉄道ファンを引き付ける小幌駅の存在

小幌駅は険しい山々と崖に囲まれた無人駅で、毎年全国から多くの秘境ファンや鉄道ファンが訪れている。年間およそ2,000～3,000人の訪問者があり、豊浦町観光の穴場の存在となっている。

・いちご、ホタテ、豚肉に代表される豊富な一次産業資源

豊浦町では、80年以上もの栽培の歴史のある豊浦いちご、また本町が発祥地であり養殖を始めてから半世紀を迎えた噴火湾ホタテ、さらに町内2つの農場で生産されるSPF豚など、それぞれ歴史と品質を誇る名産品となっている。

・食に関するユニークなイベント

上記の特産品に関して、豊浦町では「いちご豚肉まつり」や「世界ホタテ釣り選手権大会」、「海産総選挙」などユニークなイベントを開催し、多くの観光客を集めている。特に「いちご豚肉まつり」は人気があり、半日のイベントで1万人を超える観光客を集めている。

・安全に楽しめる海水浴場、多様なキャンプ場

豊浦町には、海水浴場と5つのキャンプ場が整備されており、夏は多くの観光客でにぎわっている。また、豊浦港には町が管理するプレジャーボート専用の係留基地もあるなど、まさに豊浦町は海のレクリエーションの一大拠点となっている。

・海・山・農村の環境を活用した多様な体験メニュー

豊浦町には海のほかに、山、溪谷、田園などいろいろな観光資源素材がある。それぞれで様々な観光利用の可能性はあるが、それらの資源を組み合わせることにより、さらによりダイナミックな体験活動が生まれる可能性がある。

豊浦町の観光資源・施設

大項目	中項目	名称	概要	評価
自然資源	山岳	昆布岳	標高1,045.1mの火山。とがった山頂となだらかな裾野が特徴。頂上からは洞爺カルデラとその手前に広がる火砕流台地や有珠山を展望できる。	遠くからでもすぐわかる天を突くような独特のピークと、360度遮るものない頂上からの眺めが魅力の山。メジャーな山ではないが、ファンも多い。
	海岸景観	礼文華海岸	豊浦町礼文華地区にある噴火湾沿いの海岸線。地の果てを思わせる断崖絶壁と奇岩が連なる豊浦町随一の景勝地。かつては、この険しい海岸線を室蘭本線が走り、斉藤茂吉や与謝野鉄寛・晶子、伊藤整など、近代文学を代表する歌人や文人たちも礼文華海岸の風景を賞賛している	かつての鉄道時代の景勝地。車社会になって今は忘れられがちだが、その景観は美しく、もっともっとPRすべきではないか。
	滝・溪谷	ボンベツの滝	昆布岳より湧き出るボンベツ川上流部にある落差20メートルの滝。アイヌ語の「ボン・ベツ（小さい川）が語源。さらにこの周囲には、「そうめんの滝」、「白糸（しらいと）の滝」、「透見（すかしみ）の滝」がある。	自然の中に複数の個性的な滝があるのが魅力。この一帯を自然公園のような整備ができないだろうか。
	その他自然現象など	洞爺湖有珠山ジオパーク	洞爺湖有珠山ジオパークは、洞爺湖や有珠山の火山活動により形成された地質や自然、さらにはそうした自然に育まれた縄文文化の遺跡群などの価値が評価され、日本初の世界ジオパークに認定された。ジオパークは、洞爺湖を囲む豊浦町など周辺1市3町で構成されており、豊浦町には地質的に貴重な海岸景観や次に記載するカムイチャシなど遺跡群が残されている。	ジオパークという点、洞爺湖のイメージが強いが、ジオパーク認定には自然とともにその自然を背景に培われてきた歴史や文化も重要な要素となっている。その意味でも、豊浦の歴史・文化をジオパークの中でもっとアピールできないか。
歴史・文化資源	史跡・名勝・観光スポット	カムイチャシ史跡公園	アイヌ文化期の遺跡。噴火湾を一望できる岬の高台にある。2010年、国指定の景勝文化財「ピリカノカ*」に指定された。 *ピリカノカとは、アイヌのユーカラに語られた物語伝承の舞台またはアイヌ語により命名された独特の地形から成る土地など、文化財として保護すべき名勝地をいう。これらの景勝地はアイヌ語で「美しい・形」を意味する「ピリカノカ」と総称され、その中でも優れた景観は、国指定の名勝（景勝文化財）として保護されている。	国指定のピリカノカは、全道に10か所あり、アイヌ文化に対する関心の高まりから、それを巡るツアーも今後たくさん企画されるものと思われる。
		日本一の秘境駅小幌駅	豊浦町礼文華にあるJR北海道の駅。秘境駅として知られ、秘境ファンや鉄道ファンが訪れている。牛山隆信著『秘境駅へ行こう!』（小学館文庫）の秘境度ランキングで日本一に輝いている。	知る人ぞ知る豊浦町の隠れた観光資源。あまり有名になると秘境性がなくなるという不安はあるが、近年、口コミなどで訪れる人が増えつつあり、安全対策などその対応が問われている。
		小幌洞窟	JR小幌駅から20分ほどでアクセスできる。江戸時代前期の僧侶である円空(1632-1695)が、1663年の噴火で大量に煙を上げている有珠山を見て、山が鎮まるようにと仏像を彫り、安置したと言われている。この仏像が岩屋観音と言われる。もともとは先史時代の遺跡であり、小幌洞穴遺跡と名付けられている。発掘調査では、約2,000年前の貝塚が発見され、多数の土器や石器とともに、人骨も見つかっている。	同上
		礼文華遺跡	礼文華川の河口に発達した段丘上に発見された遺跡。約2,000年前の縄文時代前半の恵山文化の貝塚遺跡として有名である。土器・石器・骨角器をはじめ動物遺存体・人骨といった考古学・人類学研究にとって貴重な資料が出土している。	数千年前からこの地に人が住み、暮らしていたことを知る貴重な遺跡。古くから噴火湾が、豊かな海であったことを物語っており、現代と対比することで、新たな町の魅力が見えて来るかもしれない。
		文学碑公園	過去には斎藤茂吉、与謝野晶子など近代文学を代表する歌人や文人たちが豊浦の海岸を称賛、その歌が刻まれた記念碑がある。	上記礼文華海岸の評価と同じ。
		インディアン水車公園	貫気別川を遡上するサケを捕獲するために設けられた施設。豊浦町では、大正時代から魚つき林を整備するなど、海洋資源の継続的な維持管	シーズン性はあるものの、見せ方や販売方法を工夫することで魅力的な町の観光拠点として注目され

大項目	中項目	名称	概要	評価
			理を行っている。インディアン水車で捕獲した鮭は採卵し、毎年稚魚を放流している。	る可能性がある。
		イザベラ・バードの道	「猿留山道」(えりも町)、「雷電山道」(岩内町・蘭越町)と並び、蝦夷の三大難所といわれた「礼文華山道」。1799年の松前藩による開削から1894年までの開拓期に、たびたびの改修を重ねながら利用された。1878年に訪れた英国人イザベラ・バードの旅行記「日本奥地紀行」にも記述がある。	イザベラ・バードの歩いた礼文華山道は一部残っており、その近くの林道を活用してフットパスコースなどをつくってみることも考えられる。
		噴火湾ホタテ養殖発祥の地碑	内浦湾の海の恵みを代表するホタテの養殖が始まったのは1966年、豊浦町の礼文華が最初と言われる。	ホタテ販売の際やホタテ料理提供の際には、是非消費者に伝えたいキーワードである。
観光施設	道の駅	道の駅とようら	豊浦町の玄関口、国道37号と道道97号が合流する地点に位置し、豊浦町の特産品を販売。テイクアウト商品として、「いちごソフトクリーム」やホタテフライの「ホタテフライ級」が人気	国道沿いの恵まれた立地であるが、周辺市町村の道の駅と比べると、駐車場が小さいことや、施設の規模や品揃えの面、また食堂がないことなど、改善すべき点も多い。
	展望台	噴火湾展望公園	小高い丘の頂上付近につくられた高さ20mの展望塔。展望デッキから噴火湾を一望できる。1階には売店・土産物店・食堂などがある。入場無料。	展望は確かに良いが、展望だけでは、観光客も住民も何度でも行く施設ではない。また旧パークゴルフ場など広大な敷地が活用できていない。
	海水浴場	豊浦海浜公園	海岸環境整備事業でつくられ、堤防に囲まれ穏やかな海水浴場	安全な海水浴場として人気がある。また、キャンプもでき、温泉にも入れるのが魅力。
	キャンプ場	豊浦海浜公園キャンプ場	上記海水浴場と天然豊浦温泉しおさいが隣接したキャンプ場。シーズンには予約が取れないほど人気。(令和4年度より予約制)	海水浴場シーズンは予約が取れないほど人気だが、平日や繁忙期以外は利用者も少なくなるため、平日、閑散期の活用が課題。
		高岡オートキャンプ場	キャンピングカーサイト:24区画 フリーテントサイト:22台分(令和4年度より予約制)	オートキャンプ場としての設備は一応あるが、隣接するサイトとの距離感が近すぎる、温水シャワーが整備されていないなど、全体的に設備が時代遅れである印象。
		大岸シーサイドキャンプ場	細長い砂浜に設置されたキャンプ場。隣接地にカムイチャン史跡公園がある。	水際でのオートキャンプができるのが魅力。海水浴場ではないが、釣り人やサーファーが訪れる。
		礼文華海浜公園キャンプ場	砂浜と芝生の海浜キャンプ場。オートキャンプができるサイトもある。令和4年度にはアイヌ文化情報発信施設「イコリ」、アイヌ文化体験交流施設(トレーラーハウス)がオープンし、より魅力的な施設となった。(令和4年度より予約制)	規模も大きく、海岸でオートキャンプもできる。ここも海水浴場ではないが、釣り人、サーファーやSUP愛好家が訪れる。またアイヌ文化を知る、体験できる施設としても今後の活用が望まれる。
		豊浦森林公園キャンプ場	静かな森林内のキャンプサイトとのほか、バンガローが5棟建っている。(令和4年度より予約制)	名前の通り、森に囲まれた静かなキャンプ場。集会場もあり教育キャンプには最高。
	パークゴルフ場	豊浦渚パークゴルフ場	3種類のコース、全27ホール	多様なコースがあるのが魅力。
	加工体験	豊浦町地場産物販売加工施設「すいしゃ」	インディアン水車公園内にある休憩所機能を備えた「地場産物販売加工施設」。2018年8月16日オープン。	農水産物販売及びその加工拠点として、また今後はふるさと納税発送拠点としても活用が期待される。
	温泉加工体験	天然豊浦温泉しおさい	豊浦の漁港の横に建てられた温浴施設。毎分500ℓの豊富な湯量100%源泉かけ流し。泉質は硫酸塩泉で、神経痛や冷え性、疲労回復に効果がある。	豊浦町に立派な温浴施設があることは、夏場の海水浴客やキャンプ客の誘致促進に貢献している。
	宿泊施設	天然豊浦温泉しおさい	同上。18畳の18畳大きな部屋が68部屋、15畳2部屋、10畳1部屋ツイン利用の洋室(17㎡)2部屋の計11部屋の宿泊部屋がある。あり、海側の7部屋は内浦湾が眼前に広がる。家族など大人数での宿泊に最適。	宿泊施設としては部屋数が少なく、キャパシティの問題がある。修学旅行やツアー団体など、大人数での宿泊には適さないため、高付加価値の商品提供で客単価を上げる必要がある。宿泊施設とし

大項目	中項目	名称	概要	評価
		民宿 美音	4室	ての役割も大きいですが、主に団体客向きの施設なため、一般旅行者の宿泊には不向き。 個人旅行者の宿泊施設として貴重
イベント	イベント	とようらいちごいちご豚肉まつり	6月上旬の日曜日。豊作を願って行われる豊浦町一番のイベント	人気イベントで知名度も高い。並んでばかりで思うように商品が買えないなどの不満もある。
		まるごと豊浦 北の収穫祭	3月上旬に行われる産地ならではの直売イベント。旬のホタテや噴火湾地域の特産品が勢ぞろい	同じく人気イベント。札幌方面からの来客も多い。
		世界ホタテ釣り選手権大会	ホタテ産地豊浦町が世界に発信するスキヤロップ・エンターテイメント。スポーツ庁・文化庁・観光庁の3庁連携事業スポーツ文化ツーリズムアワード2020で「食文化ツーリズム賞」受賞。公式戦(個人・団体・ジュニア)、エキシビジョン、出張イベント等、年数回行われる。	豊浦らしいユニークな取り組みで、メディア露出も多く、豊浦町産ホタテの情報発信にも大きく貢献している。イベント。家族で楽しめる。
		とようら大山車夏祭り	豊浦の夏を彩るお祭り。盆踊りやステージイベント、そして花火など、地元民も観光客も楽しめるイベント。	商工会青年部や地元有志がはじめたイベント。今後、知名度が広がることで、夏の一大イベントとして、来場者数が増えていくことが望まれる。
特産品	農産物	いちご	豊浦は北海道有数のいちごの名産地。「豊浦いちご」は80年ほどの歴史を誇り、地域商標として登録もされている。	いちごの直売所だけでは、せっかくのいちごで有名なまちとしての付加価値が高まらない。豊浦一の特産品であることを考えると、戦略的なイメージアップ事業、販売促進事業、加工品生産、生産拡大のための人材育成事業などが必要。
		アサツキ	小ねぎやわけぎと同じネギの仲間。全道1の生産量を誇る。	卵とじ、味噌和え、ジンギスカン、刺身の薬味など活躍の場は多いが、事業者が少なく、また食材としての知名度も低い。アサツキ自体のブランド化や、豊浦町産である特長が欲しい。
		豚肉	麦類10%以上を配合した飼料を食べて健康に育った・安全・安心な豚肉。肉質はきめ細やかで、柔らかく、冷めてもかたくなりにくい。豚特有のにおいがなく、あっさりしている。	認知度はもう一つ。豊浦ブランドで売り出せるための工夫と、今後のPR拡大に期待。
	海産物	ホタテ	豊浦町は、北海道噴火湾地域ホタテ養殖発祥地。上質な味で知られる。	知名度は高いが、町内で購入できる店が少なく、通年で購入できる直売所や、様々なホタテ料理が食べられるお店づくりなど、今後の発展課題は多い。またお土産やふるさと納税の需要を鑑みると、賞味期限や配送も考慮した加工品の開発が求められる。
その他	新たな取り組み	豊浦町小幌駅『秘境到達証明書』	「日本一の秘境駅」としても知られている「小幌駅」を、知内町小谷石ならびに美深町松山湿原の秘境名所と連携し、「北海道三大秘境」としてPRするとともに、小幌駅を訪れた方の旅の思い出として『秘境到達証明書』を発行	小幌駅の駅名看板を背景にして、スマホカメラ等で本人が証明出来るよう撮影(自撮り)、「道の駅とようら」または「天然豊浦温泉おきい」にて、証明書発行。小幌駅から、豊浦町内への回遊を高める、あらたな取込み。
		新規就農者研修施設 旧・大岸鉱山分校「いちご分校」	新規就農対策及び稼げる農業に対応するための6次産業化の事業の核となる施設として2019年度に整備され、農業用研修ハウス(当面6棟)、加工施設が併設している。新規就農は40歳以下の夫婦2組を「地域おこし協力隊」として募集、3年間の研修後就農を目指す。農業体験、市民農園、加工体験施設としての機能を持つ。	新規就農者研修施設として2019年より稼働。今後、加工体験、収穫体験や、宿泊、市民農園いちご農家を知る施設として観光活用も検討していくことが考えられる。
		アイヌ文化の情報発信	2022年4月に豊浦町アイヌ文化情報発信施設「イコリ」、アイヌ文化体験交流施設がオープン。	左記2施設を活用した、アイヌ文化の普及啓発及び観光振興の促進が必要。

豊浦町観光資源マップ



道の駅とようら



豊浦町海浜公園



噴火湾展望公園



豊浦町森林公園



カムイチャイア史跡公園



文学碑公園



アイヌ文化情報発信
施設イコリ



天然豊浦温泉しおさい



高岡オートキャンプ場



インディアン水車公園



大岸サイト キャンプ場



礼文華海浜公園

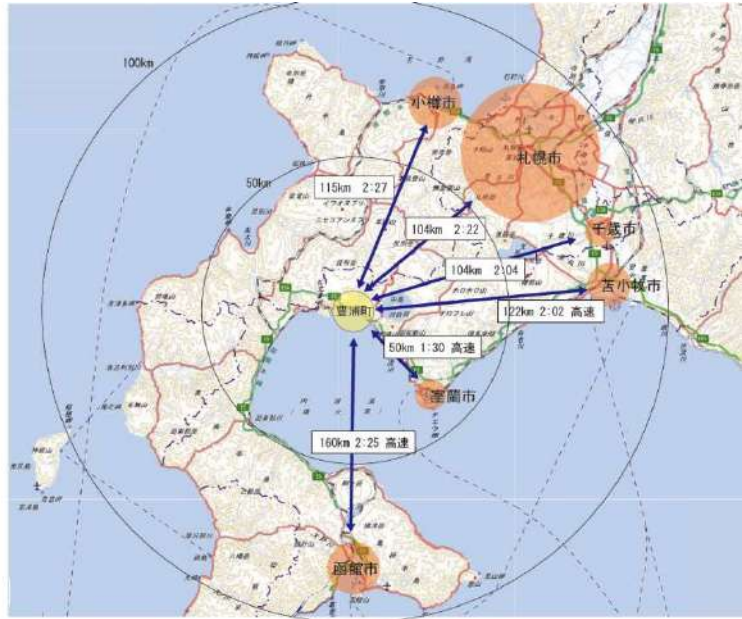


小幌駅

(3) 観光立地特性

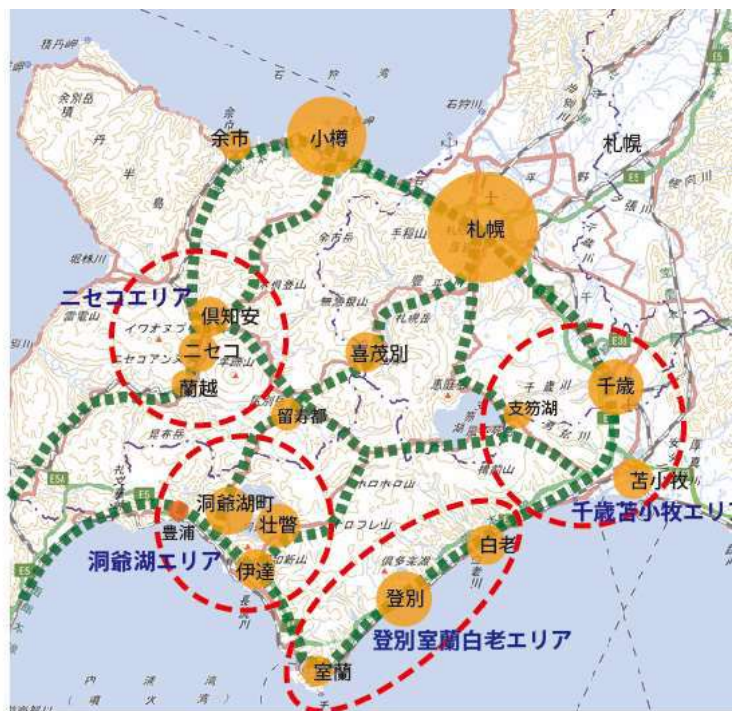
①交通立地

豊浦町の半径100km圏内に、道南から道央にかけての北海道の主要都市が含まれており、観光市場的には恵まれた立地条件にある。ただし、札幌圏と豊浦町の間は山岳丘陵地帯であり直線的に結ぶ鉄道はなく、鉄道でのアクセスは大きく東西に迂回することとなり、かなりの時間を要することになる。したがって、札幌方面からのアクセスは車に頼らざるを得ない状況があり、公共交通しか利用できない人にとっては、非常に行きにくい場所になっている。



②周辺観光地との関連

豊浦町は、洞爺湖エリアに近接し、しかもニセコエリアからも比較的近い位置にあり、これら北海道を代表する観光地からの観光客の流入が期待される。特に、これら主要観光地にはない「海」という観光魅力があり、これを生かすとともに、今後アクセスの改善や新たな魅力スポットの開発、PRの強化により、新たな観光客を誘致する可能性が高い地域といえる。



2-2 観光振興の課題

これまでの現況整理を踏まえ、現在の豊浦町の観光の基本的な課題を別表で整理をした。その整理に当たっては、豊浦町の観光を、便宜的に①成熟型観光と②発展型観光とに分け、課題を考察した。

成熟型観光とは、従来から豊浦町観光の中心であった「道の駅を中心とした立ち寄り型観光」、及び夏の「海水浴・キャンプ」、それから「天然豊浦温泉しおさい」の3つの観光形態を指し、それぞれの発展課題を整理した。

また、利用人口は少ないが、豊浦の観光特性が発揮でき、将来的に有望な観光形態を発展型観光とし、「秘境探訪」、「アウトドア」、「体験型観光」の3つの観点からその発展課題を整理した。

これらを整理した結果、豊浦町観光の全体的課題として、大きく以下の4つの課題を提示する。

<課題1> 楽しむ場の充実による通過・立ち寄り型観光からの脱却

豊浦町観光の課題の一つは、海水浴やキャンプ、温泉を除くと、一般の観光客が気軽に立ち寄り時間を過ごせる魅力ポイントが少なく、ほとんどの人が通過もしくは一時立ち寄り型の観光客であることである。すなわち、観光客にアピールできる観光素材はたくさんあるものの、それを提供する場所の開発が不十分であり、その結果、観光客は訪問するものの、あまり豊浦町で時間とお金を消費しない構造になっている。そのため、今後は、道の駅など既存観光スポットの魅力の開発が特に重要であり、これにより地域経済に貢献できる観光を展開していくことが必要である。

<課題2> 豊浦町の特産品の付加価値向上と観光客との接点の創出

豊浦町の観光イメージとして、「豊浦いちご」などに象徴されるように「新鮮でおいしいものがある町」というイメージが浸透している。特に、いちごとホタテに関しては、いずれも噴火湾地域でいち早く手掛けたのが豊浦町だったことや、いちご豚肉まつりや世界ホタテ釣り選手権などユニークなイベントを開催したことなどから、豊浦といちご、ホタテ、豚肉のイメージが一般に浸透してきたといえる。しかし、一般消費者にはこれらの特産品の知名度はある程度浸透しているものの、実際に現地に行っても、これら商品を購入できる場や時期が非常に限定されていることや、あくまで素材提供の域を出ず、素材を活用した関連商品開発などはあまり進んでいない。

いちごもホタテも周辺市町村でも同じように生産を行っており、必ずしも豊浦産のものが特別優れているというわけでもない。豊浦町が、これらの特産品を観光の目玉とするには、「やはり豊浦のものがいい」と消費者に思わせるだけの付加価値をつけることが必要であり、それこそが観光事業の役割といえる。そのためにも、すでにある「食」のイメージを発展させ、地域特産品の付加価値を高め、豊浦町観光の魅力向上を図ることが必要である。

<課題3> 観光を支える産業基盤の強化と地域経済の活性化

上記の観光を発展させる上での重要な課題として、豊浦町の関連産業の充実・発展を指摘したい。すなわち、豊浦町には食品加工を行う会社が非常に少ないために、豊浦町の特産品のほとんどが地元で二次加工されず、原材料のまま町外に流出しているのが現状である。このため、お金が地域に循環せず、就労の機会も拡大していかないという課題がある。

今後、豊浦町が食をテーマに観光事業を推進し、かつその経済効果を高めていくには、中長期的な視点に立って、水産加工、農産物加工分野での関連産業を育成していくことが必要である。ここが充実しない限り、農業者、漁業者とも限られた作物、魚種しか生産しない体制になり、地域にもお金が落ちない構造が改善されていかない。地域の食文化を発展させるには、地域の多様な食材の生産・加工・流通が重要であり、まさに総合的な産業政策として食関連産業の育成が課題といえる。

<課題4> 魅力的な農村、漁村、市街地の整備

地域観光の魅力とは、単なる観光資源の魅力ではなく、地域全体の魅力そのものに他ならない。そこに住む人々の暮らしや生業、街並み、また活気のある漁港風景や美しい農村景観などそのすべてが町の魅力の構成要素となる。豊浦町が今後観光を推進していくためには、若い人もお年寄りもこの町に住んで良かったと思うまちづくりが重要であり、これが観光客からみても、大きな町の魅力と映ることとなる。

豊浦町の観光は、まさにこのような魅力あるまちづくりの一翼を担う観光を目指すべきであり、そのためにも、多くの町民が参加してつくりあげる観光の仕組みを考え、実行していくことが必要である。

観光形態と利用の現状

豊浦町の観光特性

- 【立地特性】
- 半径100km圏内に北海道の人口の7割が住んでいる。
 - JRと高速道路との連絡はあるが、札幌方面からのアクセスは不便
 - ニセコ、洞爺湖という国際的観光地が隣接

- 【資源特性】
- 火山が与えてくれた恵みの大地、洞爺湖有珠山ジオパークに位置し、「温泉」、「美しい食材」、「美しい景色」が特徴
 - 噴火潭（内浦湾）の穏やかな海と美しい海岸線
 - 縄文遺跡やチャナンなど古代から人々が住んでいた痕跡
 - 秘境ファン、鉄道ファンを引き付ける小規模の存在
 - イチゴ、ホタテ、豚肉に代表される豊富な一次産業資源
 - 食に関するユニークなイベント
 - 海・山、農村の環境を活用した多様な体験メニュー
 - 安全に楽しめる海水浴場、多様なキャンプ場

成熟型観光

これまでの実績から安定的な需要が見込まれる観光形態

通過・立寄り型観光道の駅とようら

- 北海道旅行の途中及び道央圏道⇄道南圏の立ち寄り。
- 道の駅立寄り ● 食事立寄り ● 観光スポット立寄り
 - 観光客数 50万75千人 (H28道の駅レジャー通者等より推計)
 - 観光消費額 1億5,000万円 (H28観光動向調査より推計)
 - 利用者特性 道内84% (うち石狩47%、渡島21%、胆振15%)

温泉観光

- 天然豊浦温泉しおさいを利用する温泉入浴
- 日帰り温泉入浴 ● 宿泊温泉入浴 ● 食事・宴会
 - 観光客数 16万5千人 (H28しおさい入浴者数)
 - 観光消費額 2億4,000万円 (H28観光動向調査推計値)
 - 利用者特性 道内81% (うち石狩50%、胆振39%)

海水浴・キャンプ

- 夏の海水浴及び春から行われるキャンプ及びSUP等のイベント
- 海水浴(豊浦海浜公園) ● SUP
 - キャンプ(豊浦海浜公園) ● キャンプ(豊浦海浜公園)
 - 観光客数 2万9千人 (H28キャンプ場+海水浴入込数)
 - 観光消費額 5,200万円 (H28観光動向調査推計値)
 - 利用者特性 道内97% (うち石狩36%、胆振56%)

秘境探訪(小幌駅)

- 日本一秘境駅で知られるJR小幌駅を訪ねるコアな観光
- 観光客数 2,400人/年 (H28 観光動向調査推計値)

アウトドア

- 豊浦町の豊かな自然の中で自然とふれあう観光
- 釣り ● 長布岳登山 など
 - 観光客数 (含むグリーンツーリズム) 7,000人 (H28豊浦町調べ)

体験型観光の充実

- 豊浦町の農村に滞在し、農業体験等を行う観光。含む教育旅行
- 農村漁村体験 ● 見学体験ツアー ● ベリー狩り

発展型観光

今後の伸びしろが期待される発展性のある観光形態

個別課題

- 商品の充実
 - ・地元産品特に関心が高い観光客が求めている。
 - ・食事環境・メニューの充実
 - ・情報発信
 - ・街中のお店や立ち寄り場所など情報発信
- 食事環境・メニューの充実
 - ・豊浦の屋敷場所としてさらに個性的な料理メニューの開発
 - 多様な宿泊利用への対応
 - ・個人旅行者の増加や外国人の増加等を考慮して、多様な宿泊需要に対応できる客室棟の改造
- 地元における食材等の購入環境の整備
 - ・キャンプの食材等、キャンプに必要な食材を地元産品で調達できるようにする。
 - 施設の充実による利用期間の拡大
 - 豊浦町の観光コンテナツープやアクティビティなど回遊を高める
- 訪問者の安全の確保
 - 訪問者へのガイドサービス
 - 小規模来訪者の町内観光への回遊を高める
- アウトドア拠点の整備
 - 新たな体験プログラムの開発
 - ガイド人材の確保・育成
- 農業体験、収穫体験、漁業見学などの受入体制の構築、施設整備
 - 新たな体験プログラムの開発
 - ガイド人材の確保・育成

現状の評価

- 現状のままでは新たな発展は見込めない。
- 利用者のニーズを客満足度の高い施設・サービスの提供が必要
- 利用者ニーズでも多いのは「食」に對するものである。
- そのためには、利用者の期待に応えられる施設の整備・リニューアル、運営体制の改善が求められる。

- このような地域の特性に立脚した観光の推進を考へていくことが必要。
- キーワードは、歴史探訪、自然体験、農山漁村体験。
- 全体を通じて重要なのは、滞在(宿泊)してこれらを楽しむ環境整備である。

豊浦観光の発展方向

全体として、

● 豊浦町の本来の魅力の原点に立ち返り新たな観光を推進

- 豊浦町の魅力は、噴火潭(内浦湾)の穏やかな気候と美しい海岸線、豊かな農山漁村。そして、そこから生まれる豊かで高品質な農産物、水産物にある。
- しかし、現在の豊浦町の観光の中で、このような特性が十分に発揮されているとはいえない。

そのために、

● 豊浦の自然や文化、農山漁村の環境を生かした体験型観光を推進する。

- キャンプに加え、豊浦の自然を生かした多様なアウトドア活動の充実
- 農村漁村の魅力を引き出す体験型観光の推進

● 町内の魅力ある立ち寄り拠点を(買い場)を増やし、消費単価を高める。

- 豊浦の農水産物を販売・提供する施設整備
- 特徴的な豊浦町の食事処の充実
- そのための仕掛けづくりとして、美しい市街地整備と観光客の市街地への誘導促進

以上の実現により、

● 通過型観光から滞留・滞在型観光への移行を目指す。

● 豊浦町を訪れる観光客のほとんどは札幌圏及び胆振管内の日帰り客。道外の観光客がこの町を訪ねる目的性、魅力に欠けている。

- 豊浦町の現在の観光資源特性から考えると、その誘客圏は札幌圏を含む近郊市町村が限界である。道東方面や道外、海外からの観光客誘致は難しい。
- ただし、洞爺湖やニセコなど北海道を代表する国際観光地に隣接している好条件を考えると、今後の新たな観光魅力の創出によっては、そこを防げる道外からの観光客誘致の可能性は高い。

Ⅲ 観光振興の基本方針

1. 豊浦町観光の目指すもの

豊浦町観光の現状と課題の整理から、これからの豊浦町観光に求められること、目指すべき観光振興の目標を以下に示す。

<目標1> 噴火湾の恵みを楽しむ「食」の拠点づくり

豊浦町の観光魅力の一つは、噴火湾の恵みともいえる豊かな水産資源と農産物にある。特に、ホタテ、いちご、豚肉は豊浦の特産品として多くの人に知られ町のイメージアップに貢献しているが、購入の場や食事のできる場が限られていることに加え、関連商品開発が進んでいないため、観光資源として十分な効果を生んでいないのが現状である。そのため、今後は、観光事業及び地域おこし協力隊の活動を通じて、これら商品のブランド化を一層促進するとともに、豊浦町が単なる素材提供のまちから、食文化発信のまちとして内外から注目される観光地を目指すものとする。

<目標2> 豊浦の海と山野を活用したアウトドア拠点の充実

豊浦町のもう一つの大きな魅力は、やはり海が存在にある。特に噴火湾は、北海道の他の地域にはない穏やかで安全に親しめる海としての特徴があり、この特徴を生かした豊浦ならではのアウトドア活動の整備・充実が大きな課題と考えられる。今後、海水浴とキャンプというすでにある豊浦町の2つのアウトドア活動を軸に、魅力ある観光地を目指すものとする。

<目標3> 農村と漁村の魅力を伝える体験型観光の充実

観光客がまた来たいと思わせる大きな要素が「人」の存在である。魅力的な人との出会いや交流が感動を呼び、再びこの町に来たいと思わせる。その意味で、豊浦町の農村や漁村には感動的な体験資源とともにそれを支える魅力的な人材が豊富であり、観光協会等ではこれらの資源に着目して、地域のワンストップ窓口となり、豊浦ならではの体験交流活動を実施している。今後もこれらの可能性を広げる観光振興を目指すものとする。

<目標4> 魅力ある市街地整備

豊浦町が今後魅力ある観光地として多くの観光客を誘致するためには、豊浦の町全体が観光客からみて行きやすく、魅力的であることが必要である。しかし、現在、国道から豊浦市街へ行く道はわかりにくく、これが観光客にとっての大きな障害となっている。今後、案内サイン等の充実により、これらの改善を図るとともに、その動線上にあるしおさい通りをさらに魅力的に演出し、市街地への観光客の誘導を促進するものとする。

<目標5> 観光推進基盤の強化と財源の確保

豊浦町を含む洞爺湖一帯は、近年世界ジオパークに認定され、世界からも多くの観光客が訪れるなど、新たな観光の可能性が広がっている。また、噴火湾地域は、ホタテをはじめとして共通の資源を有しており、その連携により大きな観光需要が見込まれる可能性が認められる。今後、そうした広域連携の可能性に着目し、周辺地域との連携を強化することで豊浦町の観光基盤の強化を図るとともに、円滑な事業実施のため、新たな財源の確保を行う必要がある。一方、本町に

おいては、令和5年度に地域DMOとして噴火湾とようら観光協会が登録され、その活動に期待がかかる。今後、地域DMOを核に、町内の多様な主体が関わる豊浦ならではの観光を実現することで、豊浦町観光の基盤を強化していく。

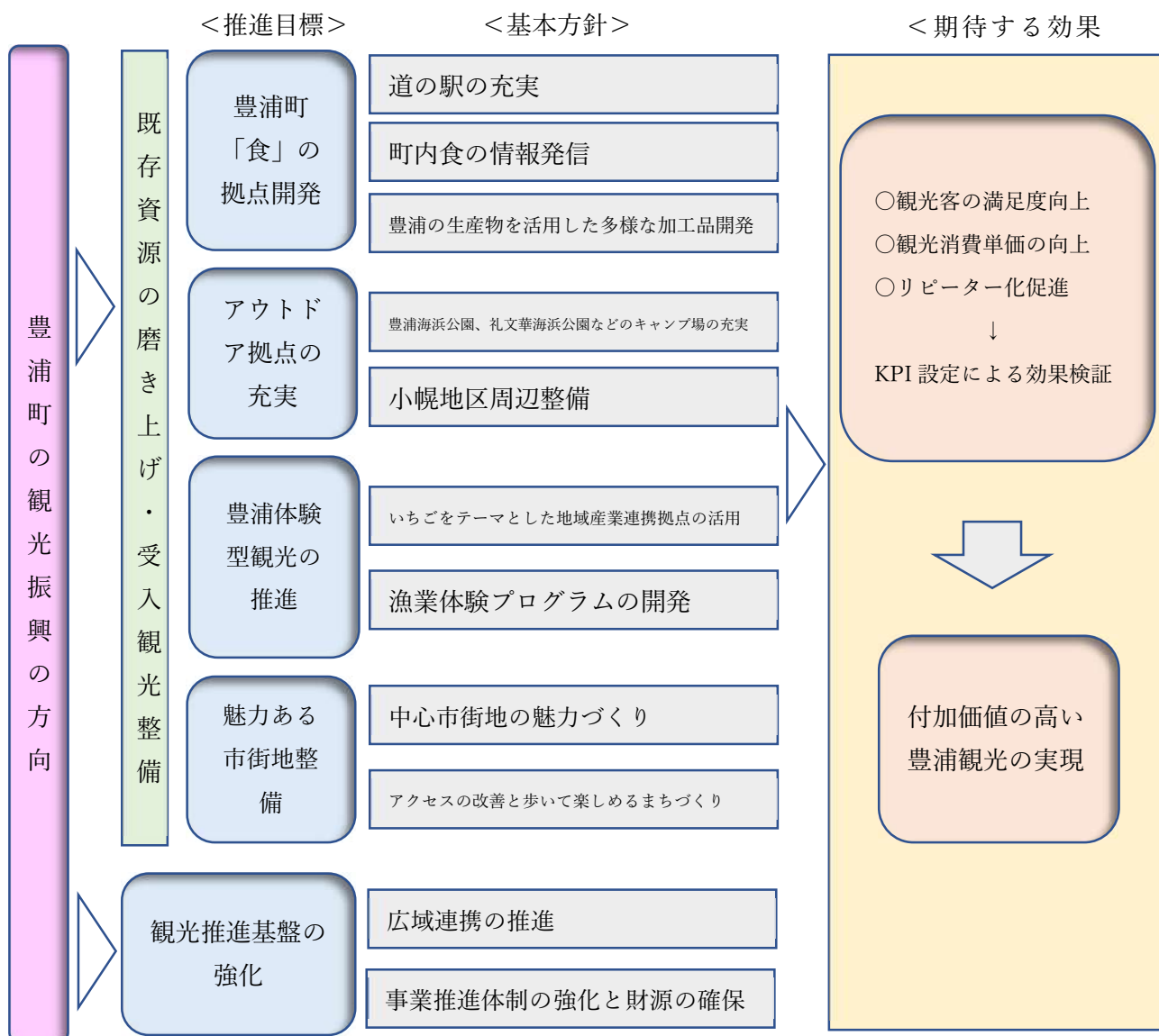
2. 豊浦町における観光地づくりの基本施策

上記の5つの目標を実現するために、豊浦町が今後進めていく観光地づくりの基本施策（重点事業）を、以下のように設定する。

この基本施策の実施を通じて、豊浦町を訪れる観光客の満足度の向上を図り、その結果として消費単価の向上、リピーター化の促進につなげるものとする。

さらに、その効果を定量的に把握するため、上記の満足度、また消費単価、再訪希望率の3つの指標（KPI）を基本指標として設定し、定期的に効果の検証を行うこととする。

豊浦町の観光振興の基本方針



目標別 基本施策（重点事業）の概要

<p>【目標 1】 新鮮な食との出会いを創出</p> <p>豊浦町「食」の拠点開発</p>	<p>1-1 道の駅の充実 道の駅においても特産品の販売機能を強化する。 【主な整備・改修施設】 ●食堂の設置 ●観光情報コーナーの充実 ●新設・建替の検討</p> <p>1-2 町内食の情報発信 町内飲食店と連携して、食のマップ作り、豊浦食材図鑑、料理レシピ等を開発し、町をあげて「食」の町をアピールする。</p> <p>1-3 豊浦の生産物を活用した多様な加工品開発 豊浦独自の水産加工品、農産加工品の開発を行う。 【主な開発商品等】 ●いちご等を活用した商品、水産加工品（干物、燻製、缶詰等）</p>
<p>【目標 2】 豊浦の海と山野を活用したダイナミックなアウトドア拠点づくり</p> <p>アウトドア拠点の充実</p>	<p>2-1 豊浦海浜公園、礼文華海浜公園などのキャンプ場の充実 海のまち豊浦町の魅力を発信するため、キャンプ場の充実を図る。 【主な整備内容】 ●各種公園の整備 ●SUP等のイベント開催</p> <p>2-2 小幌地区周辺整備 国道をとおり、小幌駅へと至るルートでの整備をする。 【主な整備内容】 ●秘境到達証明書の発行 ●散策ツアーの実施 ●案内パンフレット等の作成</p>
<p>【目標 3】 農村と漁村の魅力を伝える体験型観光の充実</p> <p>豊浦体験型観光の推進</p>	<p>3-1 いちごをテーマとした地域産業連携拠点の活用 豊浦町名産のいちごの生産拡大と付加価値向上と新規就農を目的とする研修型農業施設を交流施設、加工販売施設として活用する。 【主な整備内容】 ●販売会の実施 ●交流イベントの実施</p> <p>3-2 漁業体験プログラムの開発 豊浦漁港や豊浦の海を活用して、豊浦ならではの漁業体験、プログラムを開発する。 【主な開発内容】 ●セリの見学ツアー ●世界ホタテ釣り選手権大会の体験ツアー</p>
<p>【目標 4】 アクセスの改善と美しいまちづくり</p> <p>魅力ある市街地整備</p>	<p>4-1 中心市街地の魅力づくり 豊浦海浜公園へのアプローチ道路である「しおさい通り」を魅力的に演出し、豊浦町市街地の魅力向上を図る。</p> <p>4-2 アクセスの改善と歩いて楽しめるまちづくり 豊浦市街地へのアクセス改善と適切な案内誘導等により、観光客の豊浦町での回遊促進を図る。 【主な整備内容】 ●案内誘導サイン・標識の整備</p>
<p>【目標 5】 内外の連携体制の強化</p> <p>観光推進基盤の強化</p>	<p>5-1 広域連携の推進 ジオパーク連携、噴火湾観光連携など、広域的な連携体制を強化して、豊浦観光の可能性を広げるとともに、これによる観光交流を促進する。</p> <p>5-2 事業推進体制の強化と財源の確保 DMOの活動を軸に、町民が主体的に参加できる観光事業体制の強化及び新たな財源の確保を行い、豊浦ならではの観光地づくり、観光情報発信を進める。</p>

IV 觀光振興基本計畫

1. 豊浦町「食」の拠点開発

1-1 道の駅の充実

国道 37 号沿いにある「道の駅とようら」は、1 日平均立ち寄り台数が約 800 台と国道通過者の約 1 割が立ち寄っている（「豊浦町 DMO 観光づくり事業」H29 年度）。ここでは、豊浦町の特産品を中心に軽食コーナーも併設されており、豊浦町観光の重要な拠点の一つとなっている。

ただし、施設が古く規模も小さいため、近隣の伊達市などの道の駅と比べ商品構成は少なく、品切れが多い。特に、豊浦の特産品であるいちごや豚肉、ホタテなどを期待して行っても手に入らないことが多く、また食事メニューが乏しいなど利用者の不満の声も出ている。

道の駅とようらは、町のゲートウェイ的な意味合いがあるため、このような状況を改善し、豊浦町の食材をより便利に購入できる体制づくりを進める必要がある。

（改善が望まれるもの）

①ホタテ、豚肉等の豊浦名産品の販売拡大

昨年度の調査結果から、ホタテを含む特産品の購入希望者が多いことがわかった。これらの特産品に関しては、季節的な問題で販売できない時期があることや流通経路の問題など一般消費者に直売する上での解決すべき課題は多いが、この問題を少しでも解決し、道の駅等での販売促進を図れるようにする。

②食堂の設置と食事メニューの充実

道の駅利用者の不満の一つは食事である。道の駅だから当然食堂があってホタテなど地域の特産品の料理メニューがあると期待し訪れる人は多い。しかし、実際にはその期待が裏切られる結果になっている。食事の需要は間違いなく存在しており早急にこの課題解決を図るべきである。

③観光情報コーナーの充実

豊浦町で「食」に関する取組を進めるにあたっては、道の駅を含む関連施設との連携が不可欠である。その情報の中核となるのは道の駅であるため、道の駅において観光案内機能の向上を図り、「食」のまちの PR とともに民間のレストランを含む町内飲食施設等の情報発信を強化することが必要である。

④道の駅とようらの建替を踏まえた検討

ピーク時には駐車場が満杯になるなど集客力に限界があることや、老朽化による景観の悪化など現在の道の駅のままでは集客の拠点として不十分な点が多々ある。上記の問題点を解決するためにも販売スペース、食堂スペース、情報発信やイベントスペースが十分確保された施設への建替の検討が必要である。



「道の駅とようら」の SWOT 分析 (H29 調査より)

		強み (Strength)	弱み (Weakness)
内部環境		<ul style="list-style-type: none"> ・「いちご」「ホタテ」など知名度も高く地域を代表する産物がある。 ・季節になると様々ないちごが店頭並び、それがこの季節の一つの名物になっている。 ・時間によっては、新鮮な地場の野菜が比較的安く手に入る。 ・「いちごソフトクリーム」が有名で、それを求めに来る人も少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が古く、規模も小さい。駐車場が狭い。 ・商品メニューが少ない。特に海産物が少なく、海のイメージに欠ける。 ・売り切れてもすぐ品物が入らないことが多い(農業者の都合?)。 ・弁当の販売のみで、暖かな食事が提供されない。食事を目当てに立ち寄った人はがっかり。 ・いちご、ホタテ、豚肉など町の名物があるのに、それを活用した商品化が進んでいない。
		機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
外部環境		<ul style="list-style-type: none"> ・ A コープの閉店により、町内に競合する主要店舗がなくなった。 ・ より立ち寄りやすい場所への施設移転の話が出てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 230 号から国道 37 号への短絡路が広く認知されると利用者は減少する可能性あり。 ・ 周辺町村の道の駅が充実してきており、豊浦の道の駅の相対的な魅力の低下が生じている。

1-2 町内食の情報発信

豊浦町の食の魅力は、やはり直接現地で食べて味わうことである。しかし、豊浦での食との接点は案外少なく、今後、その接点をどのようにつくっていくかが課題といえる。

現在、道の駅や「しおさい」は、最も大きな食との接点といえるが、道の駅ではレストラン的な食事は提供しておらず、また、「しおさい」でも特別話題になるようなオリジナルメニューはなく、一般的な料理メニューの提供にとどまっている。今後、豊浦の「食」の発展を考えていく場合、この2つの公的な施設の存在は大きいですが、それだけでは豊浦に食を求めに来た人の期待に十分応えることはできないと思われる。

食事の魅力として、いろいろなおいしい料理等が心地よいロケーションのもとで食べられることである。その意味では多様な料理を提供する民間事業者の参画により、その可能性を広げることが重要である。

現在、豊浦町には特徴的なピザ専門店や寿司屋、居酒屋などの飲食店がある。これらの飲食店の協力を得て、「食」の町豊浦を外部にアピールしていく町ぐるみの取り組みを今後展開していくことが必要であり、それとあわせて、各飲食店が自主的に新たな料理メニューの開発に取り組み、魅力ある豊浦の食をつくる必要がある。

このような観点から、上記の2施設及びインディアン水車公園内にある加工室を備えた地場産物販売加工施設「すいしゃ」、また「豊浦うまいものマップ」で紹介された各飲食店が参加し、協働で取組める例えば「ホタテ料理コンクール」、「豊浦豚丼の開発」のような新たな食のイベント開発やご当地食の開発企画の実施を検討していくものとする。



観光客と豊浦町の食の接点

【現地で味わう】

道の駅

(食事) いちごソフト
ほたてフライ級

(買い物) 活ホタテ 活カキ
水産加工品 イチゴ 各種野菜

しおさい (レストラン)

ホタテフライ定食
海鮮丼 ホタテ・サーモン丼
とんかつ定食

町内の食堂・レストラン

寿司 ピザ
ホタテ飯 串揚げ
ハンバーガー
ホタテ御前、ホタテカレー
しょうが焼き

(今後の可能性)

(道の駅) 豚丼 ホタテ丼
ホタテカレー
(しおさい、レストラン)
しゃぶしゃぶ すき焼き

【通販で味わう】

ふるさと応援寄付金お礼

豊浦いちごワインセット
とようらポーク
礼文華活ホタテ
豊浦産活ホタテ
BBQセット
黒毛和牛 米
野菜 (カボチャ、紫花豆等)
鮭 イクラ アカガレイ
毛ガニ ボタンエビ

一般宅配

(北海スキャロップ)
殻付き活ホタテ
ホタテむき身 冷凍貝柱

(今後の可能性)

(宅配) 黒毛和牛
とようらポーク
野菜詰め合わせ
(イベント)
札幌などでの物産展
札幌等のホテルでのイベント

・接点が不足している。特に、豊浦の特産品を誰でもが気軽に取り寄せできる仕組みがほしい。

・道の駅での食事サービスが必要

・おしゃれな感覚で食事ができる場が少ない

1-3 豊浦の生産物を活用した多様な加工品開発

豊浦町の火山が生み出した豊かな漁場である噴火湾の海の幸、肥沃な大地に育まれた農産物などの地域食材を活かし、独自の工夫した調理方法により、新たな「食」を創出・ブランド化し、これをプロモーションすることにより、「豊浦ファン」を生み出し、日帰り客の滞在時間の延長や宿泊客の増加、リピーターの増加を図る。

また、地域おこし協力隊による新規就農や、水産加工業をメインとした起業や事業継承に向けた人材確保を行い、観光客への地場産品や海産物、農産物の提供、加工品の開発を通して、関連産業の振興を図り、地域経済の好循環によりしごと創出を図っていく。

豊浦町海産物カレンダー

魚種名	収穫期												特徴
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ほたて	2年貝 3年貝		稚貝			残存貝				2年貝		3年貝	豊浦町の特産品
さけ・ます				トキシラズ(4月下旬～6月中旬) サクラマス(4月中旬～6月中旬)					秋さけ(9月初旬～12月初旬)				トキシラズは脂がのっていて、塩焼きがオススメ。インディアン水軍公園では9月～12月までの期間に、さけの遡上を見ることができる
赤がれい													豊浦ではアカガレイ、ナメタ、ソウハチ、スナ、アサバ、ババ、マツカフ、クロガシラ、マガレイ等一年を通してたくさんの種類のカレイが水揚げされている
宗八													
平目													
石がれい													
まがれい													
毛がに													
うに													エゾバフウニは苦みがなく、最上級の味わいが楽しめる。キダムラサキウニは旨味が淡く、あっさりしている
すけとうだら													竹輪や蒲鉾などの練り製品として、また、たらこや明太子の原料となっている
なまこ													
ぼたんえび													
あわび													
つぶ													夏が旬で、とよらではカゴ漁で、青つぶ貝がとれます。殻ごと茹でたり、焼いたり、刺身がとても美味しい
のり・ふのり・まつも・わかめ													
ワラヅカ													グロテスクで蛇のような見た目ですが、刺身やフライが非常に美味しい。店頭で見かけるのは種
かじか													
はたはた													鍋、塩焼き、煮つけも美味しいですが、味噌煮も美味しい。魚卵(フコ)もいっしょに食べるのがオススメ

※さけ、ます、赤がれい、毛がに、うに、ぼたんえび、あわび、海藻類以外は漁獲量の多い期間を示しています。

豊浦町農産物カレンダー

農産物名	収 穫 期												特 徴	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
けんたろう(いちご)						→	→							北海道 優良品種に認定され、高級品で生産量も少ない。甘味・酸味のバランスのとれた美味しい莓
すずあかね(いちご)						→	→	→	→	→				香りが高く、製菓用に最適です。また夏秋イチゴの中では糖度が高く、生食用にも向いている
宝交(いちご)				→	→	→	→							甘いイチゴの代名詞の「砂糖イチゴ」を母にして、そのままが一番美味しい甘い系の莓
サマールピー(いちご)							→	→	→	→				果肉は緻密でねっとり歯にあたる感じ。ジュースさをたっぷり果肉に閉じ込めていて、甘い香りが広がる
さがほのか(いちご)		→	→	→	→	→								果肉は白色、肉質は緻密、しっとりした歯ごたえがあり、ジュース。香りがすい!
紅ほっぺ(いちご)	→	→	→	→	→	→								果肉は柔らかくジュースで、しっとりした食感。果汁があふれるのではなく、果肉の中になっさり入っているという感じ。
とちおとめ(いちご)		→	→	→	→									大粒で糖度は高くもなく低くもない、酸味は少なく、食味がよい。果肉はジュース
アロニア										→	→			
アサツキ	→	→	→	→										
食用ホオズキ										→	→	→		オレンジ色に熟した実を食べます。サラダにしたり、ジャムにしたりして食べる事が一般的
キャベツ						→	→	→	→	→	→	→		
くろさんご								→			→			
行者にんにく		→	→	→	→									アイヌネギやキトヒロとも呼ばれている、北海道の山菜。ニラとニンニクの間のような味
クレソン		→		→	→						→			
しいたけ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
ダイコン	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
たまねぎ	→	→	→		→	→	→	→	→	→	→	→	→	
トマト	→					→	→	→	→	→	→	→	→	
根わさび	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	セイウワサビとも呼ばれていて、磨り下ると白い色をしている。肉、刺身につけたりして食べる
ネギ				→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
ばれいしょ	→	→	→	→		→	→	→	→	→	→	→	→	
コリンキー								→						生食できる黄色いかぼちゃ。生のままスライスしてサラダにしたり、てんぷらにしたり、ジャムにしたりして食べるのが一般的
白菜		→	→					→	→	→	→	→	→	
ピーマン						→	→	→	→	→	→	→	→	
ブロッコリー					→	→	→	→	→	→	→	→	→	
ホウレン草				→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
レタス	→	→	→			→				→				
ササギ							→	→	→	→	→	→	→	正式名称はモロコインゲン。茹でてサラダにしたり、炒めたりいろいろ幅広く使える野菜
えだまめ								→	→	→	→	→	→	
スナックエンドウ							→	→	→	→	→	→	→	
豆類	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	豊浦町では、とう豆、はなまめ、小豆、きんとき、くろまめ、だいず等いろいろな豆が収穫できる

2. アウトドア拠点の充実

2-1 豊浦海浜公園の充実

平成16年にオープンした豊浦海浜公園は、豊浦天然温泉しおさいに隣接する広大な敷地の公園で、海のまち豊浦のシンボリックな公園になっている。特に夏の海水浴シーズンは、海水浴客とキャンパーとが大多数この公園に押し寄せ、ピーク時の芝生広場はほぼ全体がテントで埋め尽くされた（令和4年度以降は予約制とし、オーバーツーリズム対策を実施）。また、いちご豚肉まつりの会場として使われ、その日は屋台が立ち並び芝生広場はバーベキューの煙が立ち上る光景が見られる。

特に海浜公園キャンプ場においては、これまでの管理方法を見直すとともに、シーズンごとやブームとなっているソロキャンパー向けのサービス提供を行うなど、利用者をより想定した利用促進やSUP等の海を活用したイベントを実施し、利用者の増加につなげていく。

2-2 礼文華海浜公園の充実

礼文華海浜公園キャンプ場では、「アイヌ文化情報発信施設イコリ」が併設されており、アイヌ文化に関連した展示品や木造トレーラーハウス「住箱」を活用したアイヌ文化体験交流施設がある。アイヌ文化に触れることができるイベントの実施やトレーラーハウスを活用し、礼文華海岸の絶景を楽しみながら、キャンプ初心者でも楽しむことができる観光施設として運営していく。

2-3 小幌地区周辺整備

(1) 既存事業の継続・発展

①北海道三大秘境 豊浦町小幌駅『秘境到達証明書』発行

「日本一の秘境駅」としても知られている「小幌駅」を、知内町小谷石ならびに美深町松山湿原の秘境名所と連携し、「北海道三大秘境」としてPRするとともに、小幌駅を訪れた人の旅の思い出として『秘境到達証明書』を発行する事業を継続する。同事業では、証明書発行施設を「道の駅とようら」、「天然豊浦温泉しおさい」とすることで、町中への立寄りを高めることとなっている。

②小幌駅周辺散策ツアー

住民が一人もおらず車でも行けない秘境駅「小幌駅」その歴史や魅力を発信するため、地元で暮らすガイド付き散策ツアーを実施する。

豊浦町小幌駅秘境到達証明書



(2) 日本一の秘境駅「小幌駅」と礼文華地区における山道、林道の整備

豊浦町森林公園を起点とする礼文華山道は、イザベラ・バードの見た北海道を現在にまで残している風景といってよい。イザベラ・バードは、1831年に英国ヨークシャーの牧師の長女として生まれ、今から140年前の1878(明治11)年、47歳の時に日本を訪れ、日光、東北、北海道をさかのぼり平取アイヌ部落に向かい、礼文華へは平取からの帰路、9月に訪れている。

彼女の著書『日本奥地紀行』は、礼文華峠について、「礼文華はひどく淋しい孤立したところにあるが、とても魅力的なところである。・・・(村を出発)・・・これは私の旅行の中で最も長い道程であり、評判では最もひどい道程だという。17マイルにわたり、その中で最初の10マイルは山越えである。この道は人の通らぬ淋しい道で、四日間の旅で一人も人間に会わなかった。礼文華の谷間は深い森林におおわれ、あちらこちらに歩いて渡る川や危ない凹みのある地面があった。・・・とうとう道を見つけたが、やっと通れるばかりで、険しい崖の上を下りて行き、やがて海近くまで下って行く。・・・その断崖の麓には一軒の荒れはてた日本家屋があり、その中にアイヌの一家が住んでいて、峠を越す人には誰にでも宿と休息の場所を与えることになっている。」(「日本奥地紀行」イザベラ・バード著、高梨健吉訳、平凡社)と記録されている。

礼文華山道と、秘境小幌駅へは徒歩で行くこともできる。礼文華山道と小幌駅への徒歩ルートを整備し、礼文華駅から豊浦駅間は鉄道を利用する新たな観光資源として活用する。



3. 豊浦体験型観光の推進

3-1 いちごをテーマとした地域産業連携拠点施設の活用

美しい海岸線と農村景観が広がる豊浦町大岸・礼文華地域は、豊浦いちごの生産地として知られる農業地帯である。ここには、いくつかのキャンプ場が立地しているとともに、カムイチャシ史跡公園や縄文遺跡などの歴史文化資源も多い。このような観光資源を活用するためには、一定人数受け入れられる新規就農者の育成拠点となる農業研修施設、6次産業化を推進する加工販売施設、イベント等を実施できる交流施設が一体となった複合施設が必要であり、豊浦町では2019年に廃校を活用した新規就農者の研修施設をその一拠点とし、地域連携産業拠点施設いちご分校を整備した。ここを新たな生産拠点とともに都市と農村の交流拠点として、農村活性化のモデルを目指す。

地域連携産業拠点施設いちご分校

1. 整備施設の概要

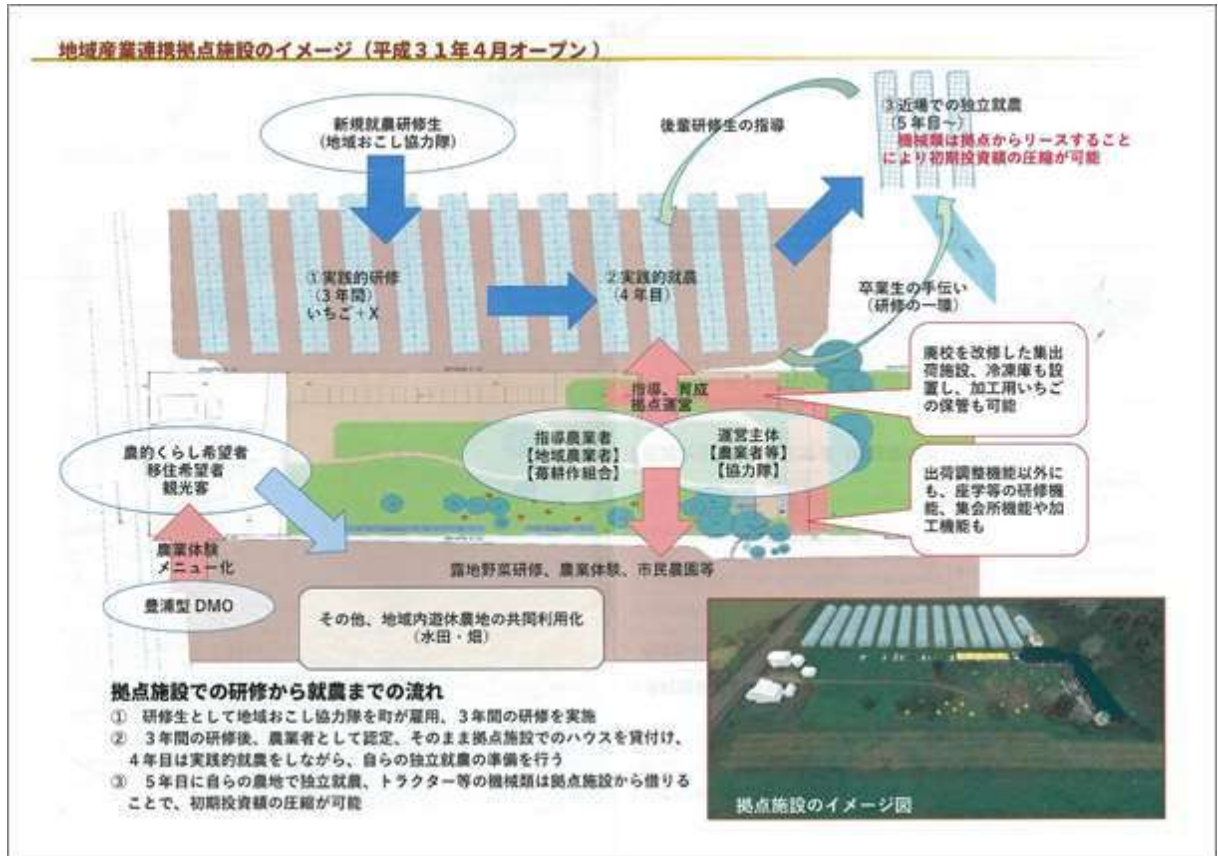
2019年大岸地区に「地域産業連携拠点施設 いちご分校」を整備した。この施設は、農業研修による新規就農者の育成により農業の担い手を確保し、6次産業化の推進により異なる産業を連携させることによって、地域コミュニティを活性化させ、移住・定住者の増加を図ることを目的とした施設です。その目的別に「農業研修施設」「加工販売施設」「交流施設」で構成されています。

2. 管理運営

上記施設は豊浦町が主体となり整備したが、その運営は地域の農業者、地域おこし協力隊等による新たな運営組織である「企業組合豊浦農業親方ネットワーク」が担う。

施設での販売イベント等の実施を通じ、地域、都市間交流を図るとともにあくまで採算性にこだわった農業ビジネスとして企画・運営していく組織であるが、特産物の販売、情報発信など、観光とも親和性があるため、連携し、観光振興をはかることが重要である。





3-2 漁業体験プログラムの開発

(1) 既存事業の継承・発展

前期計画時に既に実施していた体験プログラムを、しっかりとパッケージ（体系）化した「あなたの知らないホタテの世界」、「世界記録を狙え！ホタテ釣り体験」「お手軽♪セリ見学ツアー」や、インディアン水車公園を活用した「さけ見学ツアー」など、噴火湾とようら観光協会を中心に体験プログラムを今後も充実させ、さらに発展していくことが重要である。

また、近隣にニセコ・洞爺湖・登別等、北海道を代表する国際観光地を有する好条件の立地を生かして、一大観光地からのインバウンド観光客の誘客を目指す。地域の自然、文化、歴史、食、産業に関わるツアーや体験プログラムを通し、顧客満足度の高い観光商品を開発、プロモーションを行うことで、外貨獲得と雇用創出を促進し、地域住民が地域に対する誇りと愛着を醸成する豊かな地域づくりにもつなげていく。

4. 魅力ある市街地整備

4-1 中心市街地の魅力づくり

豊浦町の市街地の顔ともいえる本町通り（通称「しおさい通り」）沿線は、天然豊浦温泉しおさいが開業した後、隣接する海浜公園、高岡地区の海岸環境整備など進行中の海浜部の開発と連動して、平成13年度から、本町を訪れる町外の人々をもてなす「まちの顔」として環境整備が進められてきたもので、全長1.2kmのうち旭町地区を除いてほぼ整備が終了している。

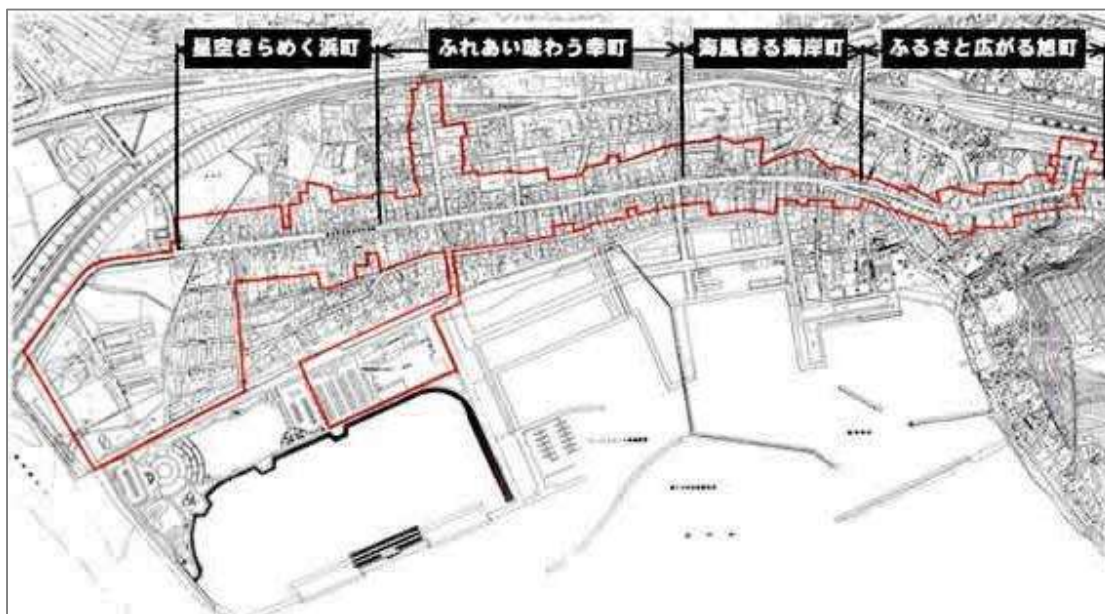
この道路の整備に当たっては、沿道の住民と「本町通りまちづくり協定」が結ばれており、建築の新築、増改築に当たっては一定の制限などが科せられる。しかし、これにより、しおさい通りの美観が保たれている。

しおさい通りは、豊浦海浜公園や天然豊浦温泉しおさいを訪れる人たちが必ず通る道であり、それが美しく整備されていることで、訪問者の満足度や期待感を高める重要な空間となっている。地域住民の力で、この街路をさらに魅力的に修景し、住民にも観光客にも快適な空間を提供することが、観光の振興を図る上で重要である。

そのためにも、今後以下の取り組みを今後積極的に進め、観光面からも豊浦の顔としてアピールしていくことが必要である。



まちづくり協定の対象区域



(出典) 豊浦町ホームページより

(1) 美しい花と緑の景観の維持

しおさい通りには住民の手でたくさんの花が植えられている。街路樹はまだ小さいが、今後の成長に伴い、町の景観はさらに立体的に美しくなるものと予想される。ただし、木花で美しく町を飾るには、ある程度の園芸技術とデザインセンスが必要であり、そのためにも講習会の開催などを通じて、住民のスキルアップを図り、継続的な管理体制を築いていく必要がある。

(2) しおさい通りをアピールする新たなイベントの開発

住民の手で美しく飾られたしおさい通りは、豊浦町の財産であり、重要な観光資源でもある。そうした認識をさらに強くするためにも、夏の観光シーズン期間中に、棧橋を活用した打ち上げ花火等のイベント開催を考えていく。

まちづくり協定の概要

【まちづくり協定の概要】
※印は住宅では選択要件となります。

1.屋根	本町の特徴である傾斜地形の見下ろし景観に配慮し、色彩については豊浦町のまちづくりのテーマ“海”と“緑”と“太陽”に合った色として「深い濃赤色系積色」とします。
2.外壁	※建物の外観、特に1階部分は、橋力、質感と耐久性のある自然素材の使用に努めるものとし、2階は板張りまたはそのイメージに準拠します。 ※色彩は屋根の色に合った素材色（レンガ、木、石、などの素材の色）、白色系、淡色系とします。 ※1階の高さは、歩行者の目線に入る高さに軒出を削いで、まちなみの連続感、統一感を出すために、外観上3.1mを基準として分節化します。
3.窓及び窓枠	原則として木製としますが、樹脂製を使用する場合は外壁材の色彩との調和に配慮します。
4.玄関扉及び枠	※原則として木製ドアとし、店舗は極力自動ドアや引き戸等を採用します。
5.車庫・駐車場	※車庫・駐車場は、極力前面に設置しないようにします。やむを得ず設ける場合は、建物に一体的に組み込むものとし、車庫のシャッターは極力木製の引き戸、鉄骨上げ式のオーバードアとします。
6.付帯施設	・施設機器等（オイルタンク、カスホンベ、電気・水道等のメーター類等）は極力道路側から見えない位置に設置します。 やむを得ず設ける場合は、露出しないように目隠しするなど景観に配慮します。 ・自動販売機は、極力建物壁面に埋め込む、または建物を後退させたスペースに設置するものとし、
7.演出	2階窓下やバルコニーに木製花台を配置し、緑化を図ります。
8.看板	統一様式の突き出し看板を1箇所設置するものとします（店舗のみ）

このほか、建物の構造について特に制限を設けませんが、建物の壁面は道路境界から50cm以上後退させ、その部分は、原則としてホタテ貝殻活用材を使用した仕上げを施すものとし、また、維持・管理面では、まちなみ景観の維持と歩行者の安全のため、店舗・住宅周辺の清掃・除排雪に努めるものとしています。

4-2 アクセスの改善と歩いて楽しめるまちづくり

中心市街地を活性化するもう一つ重要な点は、国道から中心市街地へ入るまでの道筋が現状では非常にわかりにくく、観光客の市街地への侵入を躊躇させる一因ともなっている。その改善を図るため、今後適切な位置に、よりデザイン性、機能性のすぐれた誘導看板を配置し、観光客にとってわかりやすい市街地への誘導を行う。

また、市街地内において、観光客に長時間滞在してもらうために、市街地およびその周辺の散策路を整備し、歩いて楽しめるまちを目指す。

(1) 市街地への案内看板の整備

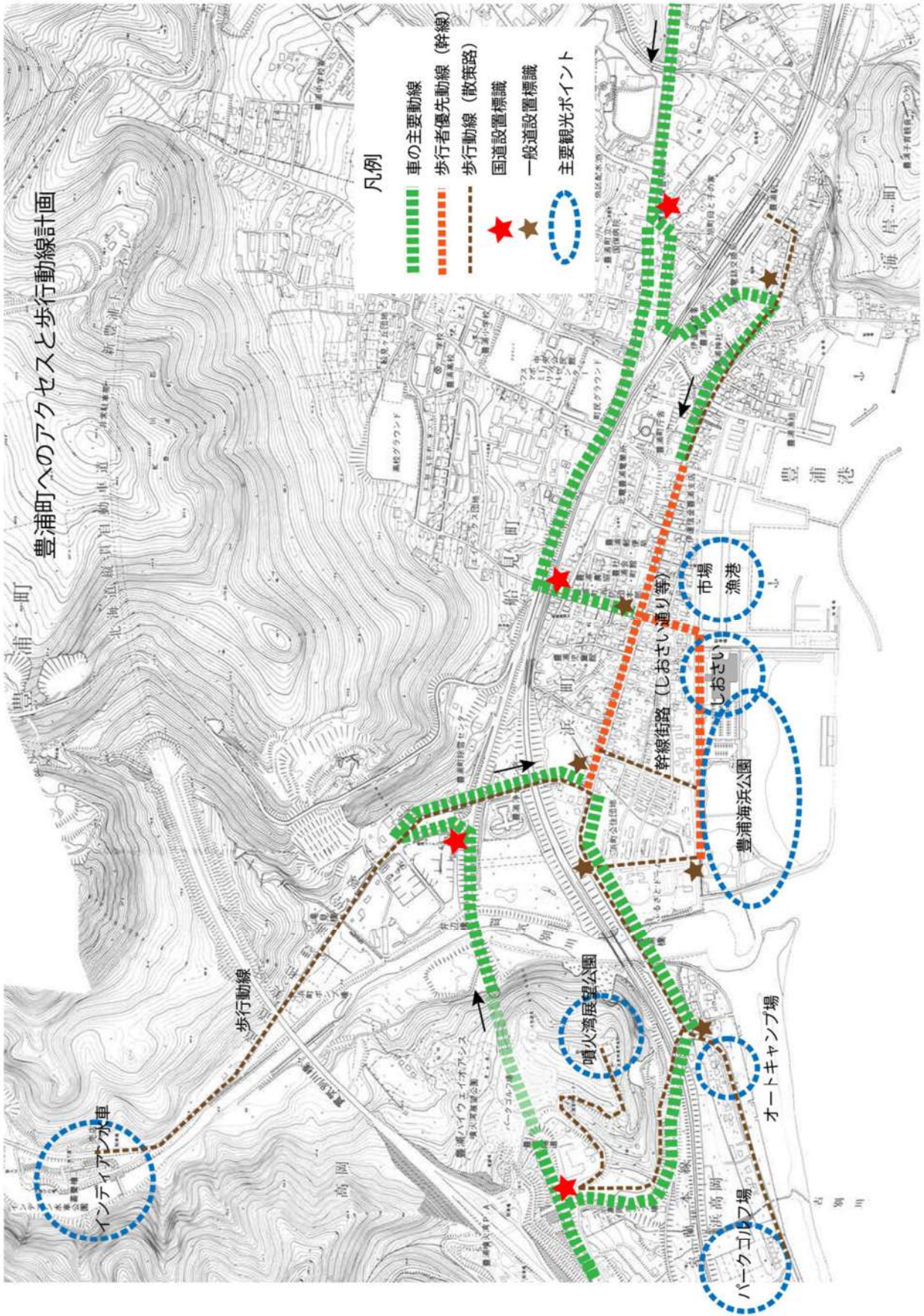
国道 37 号から豊浦町市街地へは 4 か所ほどの入り口があるが、その間に鉄道が走り、踏切や段差もあることから、市街地への進入路は必ずしもスムーズな形状にはなっていない。そのため、市街地への入り口部分におけるわかりやすい案内看板の整備が必要であるが、現状では洞爺湖方面から最初に市街地に入る交差点部分と噴火湾展望公園の交差点付近に中規模な看板が設置されているが、看板デザインがシンプルでないことや設置位置が適切でないなど、看板としての機能は十分に発揮できていない。今後、少なくともこの 2 つの地区については、何らかの看板の改修または新設が必要である。

なお、案内看板については、大岸・礼文華地区にも設置されているが、礼文華地区の大看板は設置してから相当年月も経っていることから、いずれ改修の必要性が認められる。

看板の設置については、必ずしも大きければよいというものではなく、小さくともその配置やデザインによっては十分効果を発揮することもあるので、その点を考慮することが重要である。

(2) 豊浦海浜公園を起点とした歩く道の整備

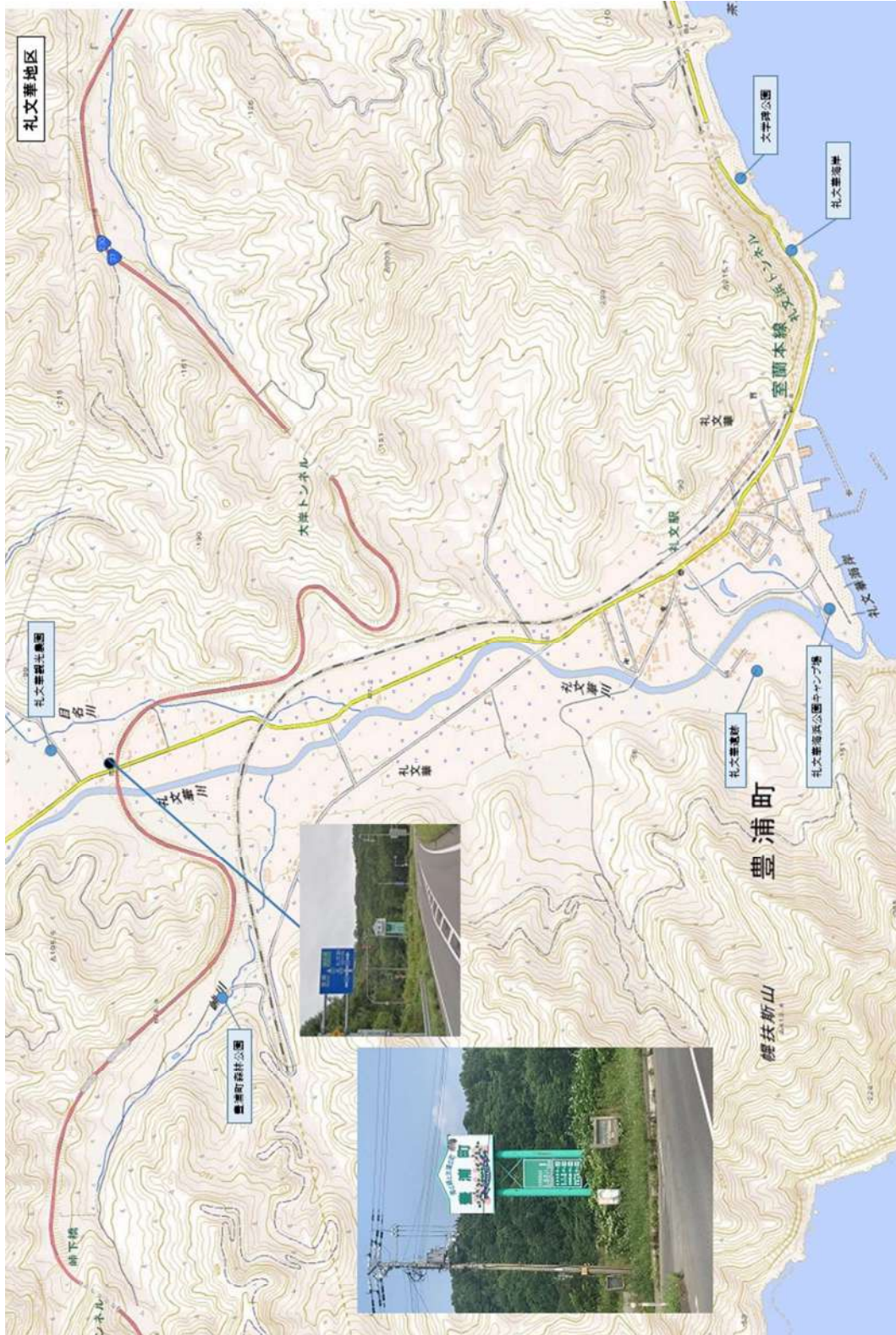
豊浦町市街地に隣接してキャンプ場やパークゴルフ場、噴火湾展望公園、インディアン水車公園などが整備されている。これらの施設は、多くの人が集まる豊浦海浜公園から歩いて行ける距離にあることから、そのアプローチ道路を整備して、ウォーキングを楽しむこともこの公園の一つの楽しみとしてアピールしていくこととする。



豊浦町の主な観光資源と案内サインの現状（豊浦地区）



豊浦町の主な観光資源と案内サインの現状（礼文華地区）



5. 観光推進基盤の強化

5-1 広域連携の推進

豊浦町が今後継続的に観光客を誘致するためには、豊浦町の観光魅力の向上はもちろんのこと、周辺市町村を含むこの地域全体の魅力を高めていくことが重要である。また、この地域を旅する観光客の利便性を考慮すると、地域が連携して効果的な観光情報の提供や広域イベントの展開が必要となってくる。

現在、豊浦町においては、登別洞爺広域観光圏協議会、北海道新幹線×nittan 地域戦略会議、胆振インバウンド6次観光周遊ルート創出協議会、洞爺湖周辺1市3町連携事業（伊達市・洞爺湖町・壮瞥町・豊浦町）、はしっこ同盟（長万部町・黒松内町・豊浦町）、羊蹄西胆振広域連携会議（周辺10町村）、知内町・美深町・豊浦町連携事業（秘境到達証明発行事業）に参画し、各種広域連携事業に取り組んでいるが、今後はよりテーマを明確にしながら、観光客目線で魅力ある新たな連携の可能性を考えることが必要である。

（1）ジオツーリズムの推進

すでに取り組みが進められている広域連携の中でも特に洞爺湖周辺の1市3町による「洞爺湖有珠山ジオパーク」は、“ユネスコ世界ジオパーク”に認定されている極めてポテンシャルの高い連携事業といえる。近年、海外でもジオツーリズムという概念が普及しつつあり、新たな観光のテーマともなっていることから、今後、豊浦町としては、特に噴火湾を一つのテーマにしながら、ジオツーリズムとしての広域連携の可能性を探るものとする。

（2）噴火湾沿岸市町村の広域連携の推進

上記の視点も含め、噴火湾地域には、ホタテを中心とする共通の食材があり、また景観的にも一体的なイメージがあることから、もう一つの広域連携の可能性として、噴火湾地域の関係市町村の連携による観光推進が考えられる。例えば、すでに室蘭市や豊浦町、渡島北部の計8か所の関連8漁協でつくる噴火湾ホタテ生産振興協議会（事務局・渡島管内森漁協）が、噴火湾沿岸を「ホタテ街道」と呼び、看板を設置する取り組みがすでに行われている。今後、豊浦町としては、このような取り組みを積極的に支援、発展させながら、噴火湾地域の観光的可能性を高めていくことが必要である。

5-2 事業推進体制の強化と財源の確保

豊浦町においては、住民参加を基本とした多様な主体の参加による観光振興と、地域の観光プログラムの充実、着地型観光の開発を推進する。

（1）住民の観光振興に向けての理解促進

従来の観光は、いわゆる観光事業者が中心となり、観光客の誘致から受入までを担ってきた面がある。しかし、観光の多様化や個性化が進む中でオリジナリティの高い、心のこもった観光を展

開するためには、地域住民との絆を深め、より地域密着型の観光を展開することが必要とされている。その場合、地域住民が様々な形で観光に参画することが重要であり、地域住民や地域企業にとって観光がより身近なものになるための、理解促進にむけた取組が必要となる。具体的には、町民も気軽に参加できる観光に関する各種セミナーや講演会、料理教室の開催などを実施する。

(2) おもてなしの心（ホスピタリティ）の向上

また、観光振興に対する理解促進と同様に豊浦町民のおもてなしの心（ホスピタリティ）の向上も重要な観点である。来訪者の満足度を高めるためには観光事業者はもちろんのこと、地域住民のおもてなしの心が優れた地域であるかどうか、地域の印象を大きく左右し、一度来た来訪者が再び訪れたい地域かどうかを判断する（リピーター化する）大きな要素となる。そのため、上記のセミナー等の開催を通じて豊浦町民のホスピタリティ意識の向上を目指す。

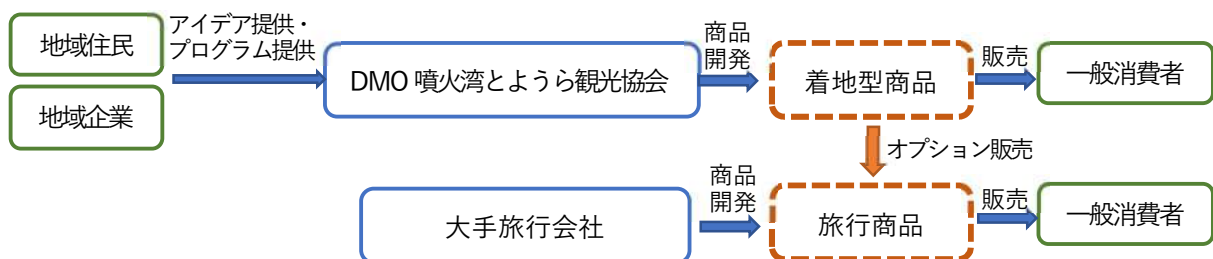
(3) 着地型観光の推進

地域住民の理解向上とともに、一方で地域住民が参画してつくる地域の観光プログラムを充実させることによって、観光がより身近なものになっていく。

従来の観光ツアーは、旅行会社が企画・販売・実施し、地域は単に空間と施設・サービスを提供するだけで、そうした形態の中からは、地域の個性を生かした旅行商品が生まれにくいことや地域の人材が育ちにくいこと、また地域への経済効果が少ないことなどから、今後は、地域が主導する観光ツアー（着地型観光）の企画推進を強力に進めていくものとする。

着地型観光は、このように旅行会社（発地）が企画する「発地型」旅行企画に対して、観光客を受け入れる観光地（受地）側が企画・プロデュースする「受地型」旅行企画であり、ツアーの実際の運営は、地域の観光協会やボランティア団体により実施される。また、地元が協力することで、今まで観光地ではなかったところも観光対象となり、新たな可能性が広がるケースが多い。

具体的には、豊浦の観光協会、ボランティア団体が協働で豊浦らしい体験プログラムをつくり、それを観光協会が販売する。または、それを豊浦ツアーの一つのオプションメニューとして、発地側旅行業者が主催する豊浦ツアーと提携して販売するような取組を継続的に実施することで、新たな豊浦の観光魅力を創造していくものとする。



(4) 新しい観光財源の確保について検討

一般的に、町税が増加すると地方交付税が減少するが、法定外税による増収は地方交付税に影響を与えないため、ふるさと納税や宿泊税など新しい観光財源の確保について検討をしていく。

6. 事業推進計画

6-1 事業実施スケジュールと事業主体

本観光振興計画で提示した各事業の実施主体並びに事業実施スケジュールは次頁図のとおりである。

本計画は今後10年間を見通した基本計画としているが、すべての事業は今後5年間での着手を目指すとともに、5年後に計画の全体的な見直しを行うことを前提に、スケジュールを作成した。

6-2 計画の管理

計画の全体的な見直しは5年後とするが、事業実施効果はできれば毎年検証し、必要に応じて計画の微修正が必要である。効果検証は、基本方針の項でも述べたように、①観光客の満足度、②観光消費単価、③リピーター化の促進（再訪希望率）を基本指標に設定し、毎年もしくは1年おきに観光客へのアンケート調査を行い、効果検証を行うものとする。

なお、その際、3年後及び5年後の数値目標を設定し、その数値目標の実現を目指すものとする。

観光振興施策の効果測定のための数値目標の設定

KPI項目	目標値	参考値（H29年調査）
満足度の向上	以下の3施設それぞれの満足度を設定 道の駅：20% キャンプ場：75% 温泉：65%	道の駅：14.8% キャンプ場：71.2% 温泉：59.6%
消費単価の向上	一人当たりの町内での消費単価（全体額）を、 日帰客：3,000円、宿泊客：12,000円とする。	日帰客：2,388円 宿泊客：9,970円
再訪希望率の向上	「必ず来たい」を45%にする。	「必ず来たい」：39%

KPI 達成のための対応策

区分	目標・対象施設	目標達成の方策	KPI 設定の方法	
満足度	<p>●主要施設の満足度向上</p> <p>「非常に満足」と答えた人の割合を高める。</p>	①道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食メニューの開発・提供 ・販売アイテムの増加 ・品薄の解消 ・イベントの開催、など 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅において、定期的に以下の項目で満足度を調査する。 ・販売品 ・食事 ・サービス ・施設全体 ・町全体
		②キャンプ場	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃を徹底してキャンパーの印象を高める。 ・周辺の観光案内、売店などの案内を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場において、定期的に以下の項目で満足度を調査する。 ・設備 ・環境 ・サービス ・施設全体 ・町全体
		③温泉	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴ある食事メニューの開発 ・レストランの開業時間の延長 ・個人旅行者に対応した多様な客部屋の用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉において、定期的に以下の項目で満足度を調査する。 ・食事 ・土産品 ・温泉（泉質等） ・施設全体 ・町全体
観光消費額	<p>●一人当たりの消費単価向上</p> <p>1回の旅行で、1人が支払う豊浦町内での消費額を増やす。</p>	・道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅内での消費拡大 ・上記の取り組みにより販売促進 ●道の駅以外での消費拡大 ・街中の飲食店、商店の案内強化 ・しおさいの割引券の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に以下の5項目で消費額を調査する。 ・買い物 ・飲食 ・キャンプ ・温泉・体験・スポーツ ・全体
		・キャンプ場	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場におけるバーベキューセット、地元の食材の販売（予約販売も可能とする） ・5か所のキャンプ場全体を映像等で紹介するPRツール作成 ・町内の体験メニューの記載されたパンフレット制作・配布 	
		・温泉（宿泊）	<ul style="list-style-type: none"> ●温泉の施設内消費の拡大 ・前記満足度向上の取り組みにより販売促進をはかる。 ・宿泊者率を高める 	
		・温泉（日帰り）	<ul style="list-style-type: none"> ・日帰り入浴者の食事利用を高める（セット割引料金等の導入） ●温泉以外での消費拡大 ・街中の飲食店、商店の案内強化 	
再訪意向率	<p>●豊浦町への再訪意向率向上</p> <p>「必ず来たい」という人の割合を増やす。</p>	・豊浦町全体	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の観光に対する理解向上を図る普及活動の継続的な実施 ・観光事業者のサービス向上を図るための研修事業の実施、など 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記調査の際の質問項目に「再訪希望」を入れ、「必ず来たい」という人の割合を調査する

■事業実施スケジュールと事業主体

推進目標	基本方針	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	実施体制
豊浦町「食」の拠点開発	1-1道の駅の充実		食事メニューの拡大・サービス向上				施設整備の検討(リノベーション新規、販売拡大)					豊浦町 事業組合
	1-2 町内食の情報発信		情報発信					情報発信、講座等、イベントの開催など				豊浦町 DMO 商工会 飲食店 町民
	1-3 豊浦の生産物を活用した多様な加工品開発	事業内容の検討			商品開発・販売イベントの実施							
アウトドア拠点の充実	2-1 豊浦海浜公園、礼文華海浜公園などのキャンプ場の充実	施設整備						共用				豊浦町 DMO アイヌ協会
	2-2小幌地区周辺整備					周辺整備	ツアーの実施					豊浦町 DMO
豊浦体験型観光の推進	3-1 いちごをテーマとした地域産業連携拠点の活用						新規就農者の受入及びイベント等の実施					豊浦町 農協 農業者
	3-2 漁業体験プログラムの開発	事業内容の検討					共用					豊浦町 DMO 漁協・漁業者
魅力ある市街地整備	4-1中心市街地の魅力づくり	事業内容の検討		工事整備要望及びイベント等の実施			整備工事の実施	整備工事の実施・イベント等の実施				豊浦町 商工会 商店街 協同組合
	4-2アクセス環境の改善と歩いて楽しめるまちづくり	事業内容の検討		看板等の整備実施								豊浦町 DMO
観光推進基盤の強化	5-1広域連携の推進	事業内容の検討			連携組織づくり及び共同事業の推進							豊浦町 DMO
	5-2事業推進体制の強化(多様な主体の参加による観光振興)	事業内容の検討			地域内連携による新たな観光イベント等の開発							豊浦町、DMO 関係団体、町民

関 連 資 料

1. 豊浦町の観光振興に関するアンケート調査
2. とようらいちご豚肉まつり参加者アンケート調査

資料 1. 豊浦町の観光振興に関するアンケート調査

(1) アンケート調査票

豊浦町の観光振興に関するアンケート調査にご協力ください。

町民 各位

今年も余すところわずかとなりました。皆さま方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本町には、穏やかな海と美しい海岸景観はもちろん、縄文遺跡やチャシ、秘境マニア・鉄道マニアを引き付ける小幌駅、また、いちご・ホタテ・豚肉に代表される豊富な一次産業資源、海・山・農村の環境を活用した多様な体験メニュー、安全に楽しめる海水浴場や多様なキャンプ場など豊かな観光資源があり、これらは町の誇りともなっています。

このような観光資源を積極的にまちづくりや観光振興に生かすため、豊浦町では本年度、その指針となる観光振興計画を策定することとしました。

計画づくりに当たっては、町民の代表者で構成される観光審議会を設置し、各分野の意見を集約するとともに、より多くの町民の意見を計画に反映させるために、この度、町民アンケート調査を実施することとしました。

年末年始の大変お忙しい時期かと存じますが、どうか調査の趣旨をご理解いただき、本アンケート調査にご協力くださいますようお願いいたします。

平成 30 年 12 月

豊浦町長 村 井 洋 一

■このアンケート調査について

- ・このアンケート調査は、全町民から 20 歳以上の方を対象に 400 名を無作為抽出しています。
- ・調査結果は「豊浦町観光振興計画」の基礎資料としてのみ活用しますので、この目的以外で使用することはありません。また、アンケート調査の情報は、統計的に処理し、個人を特定することはありません。

■回収方法

- ・同封した返信用封筒にご回答いただいたアンケートを封入し、**平成 31 年 1 月 15 日(金)**までに、お近くの郵便ポストへ投函ください。
- ・役場内の産業観光課に回収ポストを設置してありますので、直接お持ちいただいても結構です。

■ご記入にあたって

- ・各設問には、回答数が決められているものがありますのでご注意ください。
- ・回答は、該当する回答項目の口 に を付けてください。

【お問合せ先】

豊浦町役場産業観光課 電話：0142-83-1408(直通) 担当：植村、杉谷
調査事業受託：株式会社ライヴ環境計画 電話：011-213-1955 担当：阿部、有山

豊浦町の観光振興についてのアンケート調査（調査票）

問1. 豊浦町には温泉やキャンプなどで町外からたくさんの観光客が訪れていますが、あなたは豊浦町の観光について、どのように思いますか？

- 町の活性化につながるので積極的に観光を推進すべき
- 現在の観光を維持する程度で十分と思う
- 町民生活への影響が心配なので観光はあまり推進すべきでない
- わからない

問2. (問1で観光の推進に賛成の方に) 今後観光を推進するために、あなたは今の豊浦町に足りないものがあるとしたら、それは何だと思いますか？ 次の中から3つまで選んでください。

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 宿泊施設 | <input type="checkbox"/> 名物料理 |
| <input type="checkbox"/> 食事する場所 | <input type="checkbox"/> お土産 |
| <input type="checkbox"/> 買い物する場所 | <input type="checkbox"/> 案内板 |
| <input type="checkbox"/> 魅力的な行事やイベント | <input type="checkbox"/> 宣伝活動 |
| <input type="checkbox"/> 地域のおもてなし | <input type="checkbox"/> その他() |

問3. あなたが町外の人にお勧めしたいと思う豊浦町の観光スポットや自慢できるものは何ですか？

次の中から5つ以内で選んでください。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 美しい海・海岸風景 | <input type="checkbox"/> 道の駅とようら |
| <input type="checkbox"/> 昆布岳・豊かな森 | <input type="checkbox"/> インディアン水車公園 |
| <input type="checkbox"/> 農村景観 | <input type="checkbox"/> カムイチャシ史跡公園 |
| <input type="checkbox"/> 漁村景観 | <input type="checkbox"/> ホタテなどの水産資源 |
| <input type="checkbox"/> きれいに整備された街並み | <input type="checkbox"/> いちご |
| <input type="checkbox"/> 秘境「小幌駅」 | <input type="checkbox"/> SPF 豚肉 |
| <input type="checkbox"/> キャンプ場 | <input type="checkbox"/> いちご豚肉まつりなどのイベント |
| <input type="checkbox"/> 海水浴場 | <input type="checkbox"/> 民間レストラン(店名) |
| <input type="checkbox"/> 噴火湾展望公園 | <input type="checkbox"/> 元WBC世界フライ級王者内藤大助選手出身地 |
| <input type="checkbox"/> 天然豊浦温泉しおさい | |
| <input type="checkbox"/> その他(隠れた穴場や町のお宝と思うものがあれば、次の空欄に自由にお書きください) | |

問4. 問3の「豊浦町の観光スポットや自慢もの」中で、町外の人を案内する際に困ったことや、改善してもらいたい点などがあれば教えてください。

--

問5. 次に示す豊浦町の施設やイベントに、あなたはどのような頻度で利用、参加していますか？

施設名	よく行く	ときどき行く	ほとんど行かない
天然豊浦温泉しおさい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
道の駅とようら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
海水浴場	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
キャンプ場	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
噴火湾展望公園	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
インディアン水車公園	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
秘境「小幌駅」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
パークゴルフ場	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イベント名	ほぼ毎回行く	ときどき行く	ほとんど行かない
いちご豚肉まつり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
豊浦漁港豊漁まつり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
まるごと豊浦・北の収穫祭	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
TOYOURA 世界ホタテ釣り選手権大会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問6. これからの豊浦町の観光を発展させるには、あなたはどのような取り組みが重要と考えますか？

- 天然豊浦温泉しおさいの充実
- 道の駅とようらの充実
- 特産品開発
- 飲食店等食事処の充実
- ホタテ等の特産品が購入できる場所の充実
- 観光に携わる人材の育成
- 外部からの人材の登用
- 観光を推進する組織の強化
- その他 ()

問7. あなたが観光面で何かお手伝いができるとしたら、どんなことができそうですか？

(複数回答可)

- イベントの手伝い
- SNS などでの情報発信
- 土産品づくり
- 料理開発
- 観光案内
- その他 ()
- 特にない

問8. 豊浦町の観光の振興で一番期待したい点は何ですか？

- 町が賑わい、商店などが潤う
- 仕事が増える
- 税収が増え、町の経済が活性化する

- 町の知名度が上がり、農産物等の販売促進、ブランド化につながる
- 若い人が増える
- 定住・移住者が増える
- 他地域との交流が拡大する
- その他 ()

問9. 日頃、豊浦町の観光で感じていることやご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

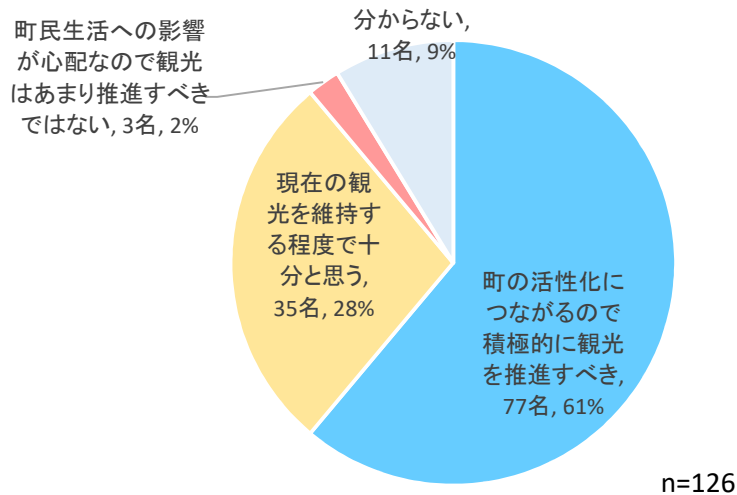
問 10. 最後に、あなた自身についてお答えください。

(1) 性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性									
(2) 年齢	<input type="checkbox"/> 20 歳代	<input type="checkbox"/> 30 歳代	<input type="checkbox"/> 40 歳代	<input type="checkbox"/> 50 歳代	<input type="checkbox"/> 60 歳代	<input type="checkbox"/> 70 歳代以上					
(3) 職業	<input type="checkbox"/> 農林業	<input type="checkbox"/> 水産業	<input type="checkbox"/> 商業・サービス業	<input type="checkbox"/> 製造業・建設業	<input type="checkbox"/> 医療・福祉	<input type="checkbox"/> 会社員	<input type="checkbox"/> 公務員	<input type="checkbox"/> 学生	<input type="checkbox"/> 主婦(夫)	<input type="checkbox"/> 無職	<input type="checkbox"/> その他 ()
(4) 居住地	<input type="checkbox"/> 本町地区	<input type="checkbox"/> 北部地区	<input type="checkbox"/> 大岸地区	<input type="checkbox"/> 礼文華地区							
(5) 居住歴	<input type="checkbox"/> 5 年未満	<input type="checkbox"/> 10 年未満	<input type="checkbox"/> 10 年以上								

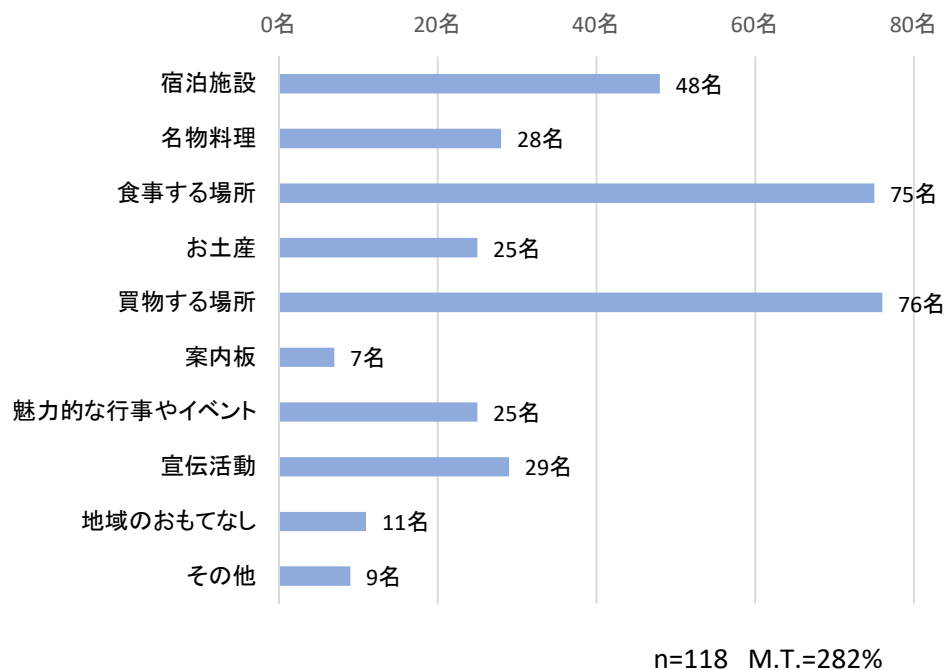
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

(2) アンケート結果

問1. あなたは豊浦町の観光について、どのように思いますか

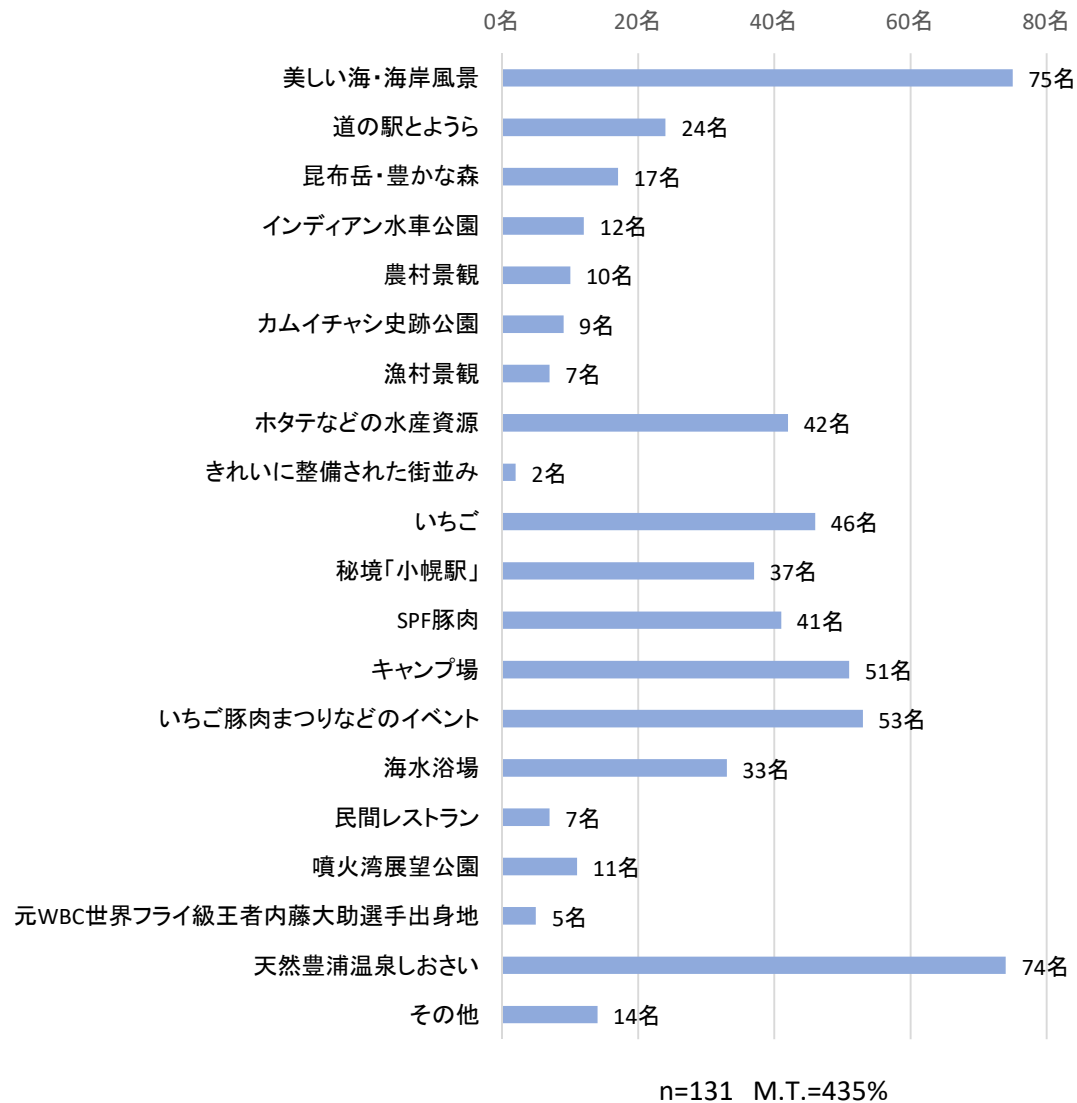


問2. 今後観光を推進するために、あなたは今の豊浦町に足りないものがあるとしたら、それは何だと思いますか



【その他内訳】長期的なプラン、道の駅は特色なくてダサすぎ、町外からの移住者、リーダー的な観光に係る人が楽しんで参加する事、人が集まる施設、景観の統一性、年間をと通じての物産がない、公園、きれいに整備された駅前通り、旧学校を宿泊、体験、実習施設として活用する

問3. あなたが町外の人にお勧めしたいと思う豊浦町の観光スポットや自慢できるものは何ですか



【その他の内訳】

- ・近くの道路
- ・穴場ではないんですが、歩くスキーの会というのがありますが、参加者が少ない。私は豊浦に来て初めてスキーを経験しましたが、楽しく仲間に入れていただき、もっと人が集まると良いと思います。個人的意見で申し訳ありません。雪を楽しむ歩くスキーの参加者がもっと増えたら！場所も何か所かあると良いです。
- ・「みさき」の辺りからの海の景色。毛嵐が見られる時は運転しながら見てしまいます。・大岸の鉦山跡。廃墟ブームなので、壇蜜に紹介してもらえないでしょうか。・大岸小学校の学校林のそばの湿地。大きな水芭蕉が春に見られます。バードウォッチングも可能だと思う。・高岡さんの「いちごシャーベット」。・小幌駅から海まで下りていく道。6月にしか言ったことがありませんが、ヤマシャクヤクなどの自然の花が見られてきれいです。

- ・ ナミヘイピザ
- ・ 貫気別川の「オジロワシ」の雄姿
- ・ 礼文華から大岸の海岸線（道路を含む）景観。造られたものではなく何十年も前に初めて見た時感動した！
- ・ 溪流フィッシング特区がある
- ・ 山村広場をもっと活用してください。健康のためのスポーツイベントとか、ネットでアピールしたら、他の地域からも参加者が増えるし、海や山が売りの豊浦なのだからトレイルランニングの大会をするとか、いろんなどころから豊浦に来てもらえるイベントをしてください
- ・ 昔、何度か小幌に行ったことがあります。海岸への道は整備されてはいませんでした。海岸が巨岩などもあり素晴らしく、感動したのを覚えています。なぜ駅だけなのか、もっと宣伝しても良いのではないかと思います。泳ぐこともできますが、引き波が強く気を付けなくてはなりません
- ・ 公園などは交通の便が悪く、年寄りには行きにくい
- ・ 豊浦の隠れたお宝は湧水と先住民！
- ・ 夕映えの街並みの美しさ。静かで美しい景色と海の殺、山の幸、畑の幸に恵まれた環境で過ごせる癒しの時間
- ・ 海から行く岩屋海岸の景色がとてもステキで日本だと思えないほどだった。（岩屋海岸の船着き場がコバルトブルー）（山側に大きな仏像を彫ったようなもの）
- ・ 高台から見る海の景色、特に夕日の沈む頃は絶景です。森林公園（礼文）のキャンプ場は穴場です
- ・ 松月堂のパン、幸栄堂の銘菓…大切なお宝だと思います。以前は、上白土さんの天ぶらかまぼこ、守谷納豆、長田豆腐店、本間製麺など町外の人でも知っているお店が沢山ありました。今はなくなってしまい本当に残念です。何とかこの2店は残したいです。松月堂のおやきは何とか復活することを期待しています。ホタテ釣り選手権のように町おこししましょうよ。豊浦と言えば〇〇何とかそういうものを作っていきたいです。
- ・ 整備されたキャンプ場、そうでない自然な感じのキャンプ場、さらに、小幌のような秘境キャンプ場もあり、自然の遊び方、場所の選択肢が多いのはメリットかと思います。釣り客の呼び込みも可能ながと。それをホタテ等と結びつけたり、漁師さんの船に乗せてもらったりできたら面白いのでは？と思いました。山でも似たようなアイデアで観光産業は作れるのではないかと考えます（農作物取り放題、体験型、乗馬、馬見学等々）。山菜ツアー、広い土地を利用したなるべく自然を壊さない遊び

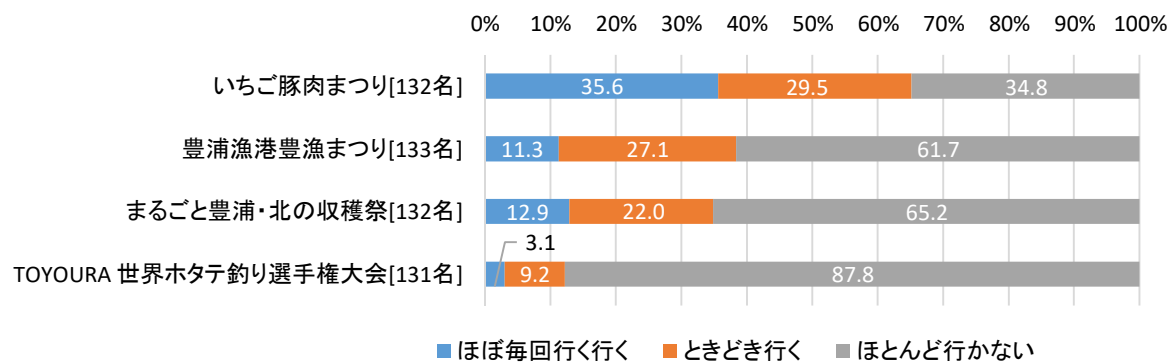
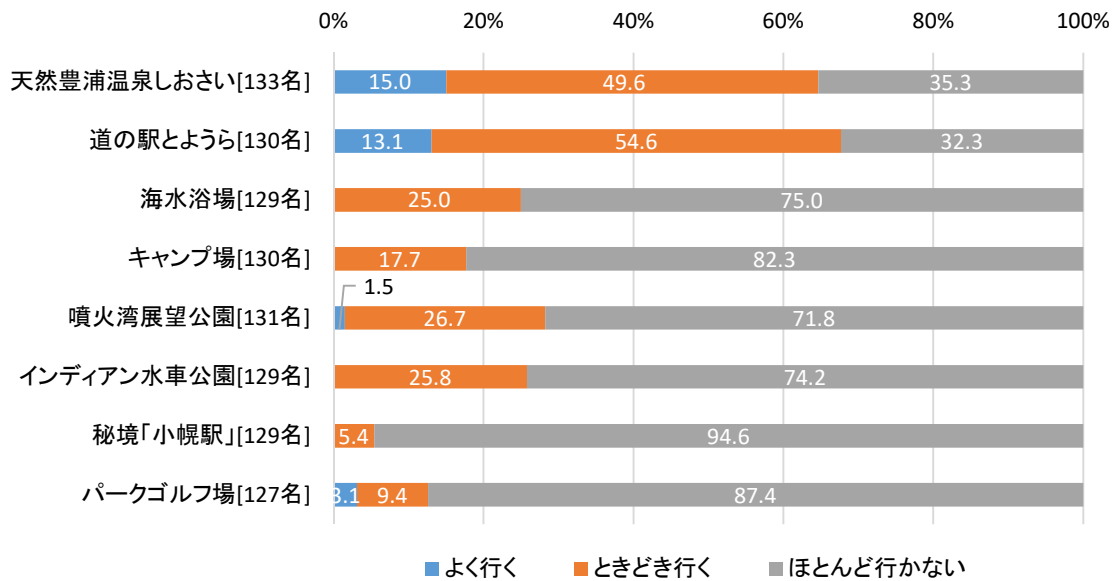
問4. 町外の人を案内する際に困ったことや、改善してもらいたい点などがあれば教えてください。

- ・買物をする場所がない。若い人が喜ぶような場所もないため、有人が来ても楽しめる場所がない。(20歳代、女性、大岸地区、医療・福祉)
- ・車以外の交通の便が利用しにくく思います。体験型観光スポットがもっとあったらと思います。(60歳代、男性、農林業)
- ・イベントが少ない。イベントなどの案内や照会が少ない。掲示板やポスター。豊浦駅はポスターなすぎで、生かせばよいのにと思ったが、景観保持のため？と疑問、、、。(20歳代、女性、商業・サービス業)
- ・食事をするお店がないので、お客様が来ても町外に行かなければいけない。何を始めても、中途半端で、尻切れトンボ状態だと思う。もう少ししっかりして欲しい。(40歳代、女性、本町地区、無職)
- ・道の駅に午前中いたら、ホタテを食べられる場所を教えて欲しいと観光客に言われた。ホタテのシーズンでもなく、しおさいのレストランもやっていなく、どこで食べられるのかわからなかった。(40歳代、女性、北部地区、主婦_夫)
- ・目印になる案内がない。商店がない。人がいない。(50歳代、女性、本町地区、会社員)
- ・駅周辺が今より栄えると良い。(50歳代、女性、本町地区、水産業)
- ・場所が分かりづらい(インディアン水車)、もう少し看板を作るなど。道の駅やしおさい、キャンプ場でPRして良いと思う。見に行きたくなるようなイベントがあつて良いと思う。(30歳代、女性、北部地区、農林業)
- ・インディアン水車公園にサケが見られる水槽があるらしいのですが、苔がついて中が見えないと文句を言われたことがあります。もし本当なら掃除をして欲しいです。(50歳代、女性、本町地区、公務員)
- ・雰囲気の良い飲食店がない。食事する場所に困る。(60歳代、男性、北部地区、製造業・建設業)
- ・SPF豚肉の町内での買いやすさ(生カット肉の種類とか)(50歳代、男性、本町地区、商業・サービス業)
- ・ホタテ、SPF豚が特産のはずなのに、美味しく提供しているお店がなく、しおさいに行って、SPF豚のカツを食べてもらったが、最悪の評価で困った(50歳代、女性、大岸地区、会社員)
- ・SPF豚を勧めたいのに町内では売っていない。大々的に宣伝してない。宝探しのように工夫した看板があれば楽しく町を散策できるのに(40歳代、女性、本町地区、医療・福祉)
- ・駅などに町内の案内板を目に付くところにあると良い(時代に合ったもの)(40歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・名物料理を食するところがない(休日の日中)(60歳代、男性、本町地区、公務員)
- ・市街地を徒歩や自転車で回りたいが、国道沿いの道など歩道がある所が限られ危険。横断歩道や信号も欲しいところに無い。車で案内だとあつという間に通り過ぎて見落としてしまう小さな町なのだから、散歩したくなる、車を降りたくなる、そういう工夫が必要だと思う。(40歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・観光スポットが点在しているので、交通手段で困った。車で来た人以外の人(50歳代、女性、

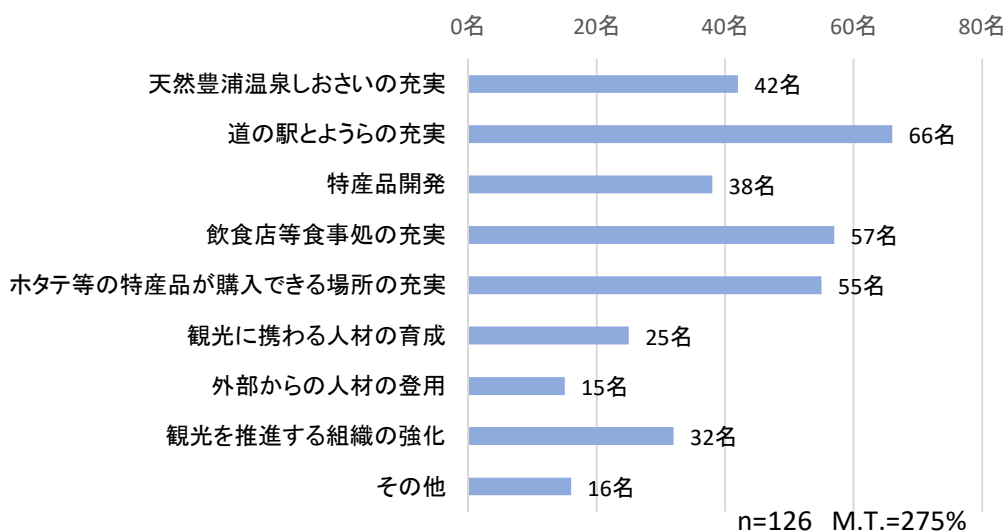
本町地区、商業・サービス業)

- ・名物を食べてもらう場が少ない(水産物など)(20歳代、男性、本町地区、医療・福祉)
- ・ホタテやSPF豚を気軽に買える場所(40歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・下町へ降りる道(50歳代、女性、本町地区、医療・福祉)
- ・観光客に特産物としてのお土産がない(60歳代、男性、本町地区、水産業)
- ・食事の場所(特に夜)、宿泊場所(50歳代、男性、本町地区、会社員)
- ・展望公園の閉館時間が早い。夜の展望もしてもらえると良い(60歳代、女性、本町地区、無職)
- ・町中に(徒歩圏内で)活ホタテなど、お土産にいつでも買える場所がない(60歳代、男性、本町地区、商業・サービス業)
- ・SPF豚は町内どこにも売っていないので、豊浦で手に入ると良いと思う。夏の時期は特にキャンプ場で焼肉をする人に特産品をお勧めして手に入れられる場所が近くにあると良いと思う。(30歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・買い物を出来るお店がない(50歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・車で来ない人には展望台やすいしゃ公園には行くことができない。私は展望台が町内を一望できる良いところだと思うが、宣伝が少なく地元の人も行ったことがない人が多い(70歳代以上、女性、本町地区、無職)
- ・海水浴場の砂浜がもう少しきれいになって欲しい(60歳代、女性、本町地区、無職)
- ・イベントのマンネリ化。町民全体で参加するお祭りが無い。年寄りから若者まで、皆でにぎわうお祭りが無い(50歳代、男性、本町地区、その他)
- ・スーパーが町内に無く、キャンプ客が困る(30歳代、男性、本町地区、会社員)
- ・以前よく町外の方にきかれたのは、海の町なのに海鮮市場がないと言われた。釣具店もわかりづらいなど、町外の方は、そういう見方をされているのか…(50歳代、女性、本町地区、商業・サービス業)
- ・観光看板を増やす(50歳代、男性、本町地区、会社員)
- ・大岸から礼文華への海岸線、秘境、アイヌ文化、地場産業(いちご、ホタテ)、キャンプ場(40歳代、男性、北部地区、無職)
- ・外国語表示の看板(アジア、特に韓国語)(60歳代、男性、本町地区、会社員)

問5. 豊浦町の施設やイベントに、あなたはどのような頻度で利用、参加していますか



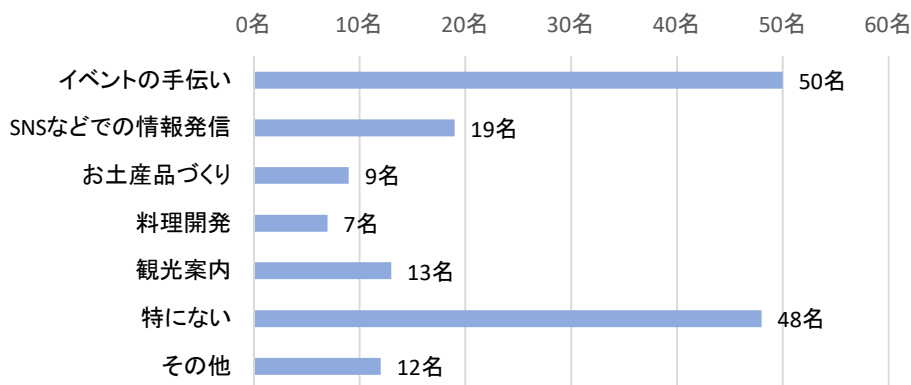
問6. これからの豊浦町の観光を発展させるには、あなたはどのような取り組みが重要と考えますか



【その他の内訳】

- ・ 買物が出来る所。
- ・ 小幌駅をもっと支える。(あまり派手にしないが、例えば小幌駅を訪れたお客様にしおさい利用半額とか、連携して豊浦の施設も小幌駅の人気にあやかってやっていけば豊浦町全体が盛り上がっていけると思う。
- ・ 飲食店が少ないのと、居酒屋が日曜定休日が多いのももう少し充実して欲しい
- ・ 豊浦町は町民皆で盛り上げて欲しいから、人材発掘イベントとかしては？特産品の開発は絶対に必要。イベントで名物料理の出店イベントとかしては？
- ・ 交通の利便性向上
- ・ 役場直営の観光振興組織の設立。責任所在の明確化。予算から決算の明瞭化。独占の防止
- ・ 中長期で滞在し、色々体験したり、食の恵みを楽しめるような場所、機会の提供。街並みにホタテ漆喰を取り入れるなどして、やや統一性を持たせると、海辺の町っぽくて美しくなると思う。
- ・ トレイルランニングコースの開発。特徴あるまちづくり
- ・ どれも重要で、それぞれ関連していると思います
- ・ 話題になるような町のゆるキャラを誕生させる(例えば夕張のメロン熊みたいに強烈なのとか、北斗市のずーしほっきーみたいにキモかわいいのとか)
- ・ 分からない
- ・ 東雲山村公園
- ・ 駅前通りの充実
- ・ 人口増
- ・ 買物ができる店を作って
- ・ スーパーが一番必要

問7. あなたが観光面で何かお手伝いができるとしたら、どんなことができそうですか



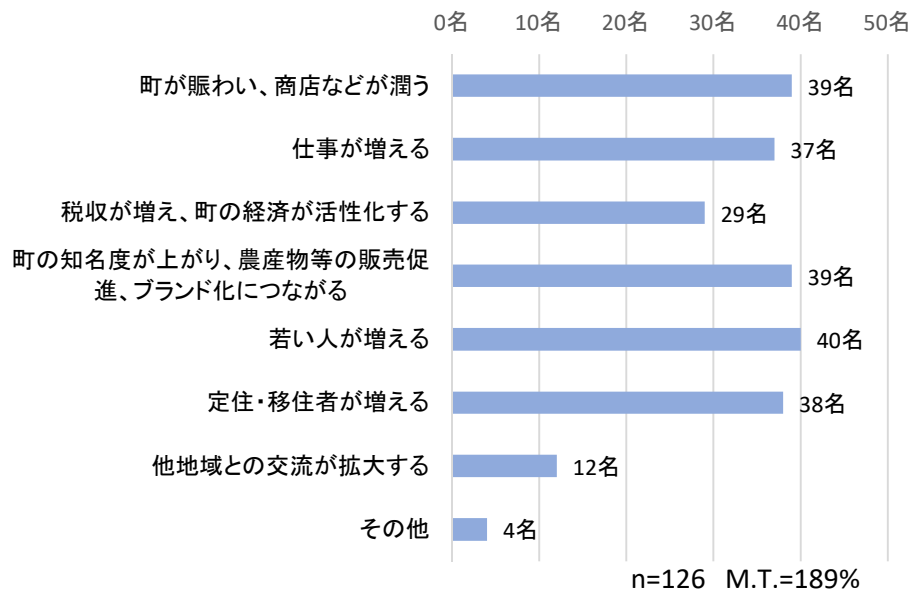
n=124 M.T.=127%

【その他の内訳】

- ・ 観光の企画を町民に広く問いかけた方が良い。
- ・ 住み慣れた豊浦町は大好きですが、まだまだ経済的にはボランティア(手伝いを出来る状態ではありません。仕事としてでしたらなら考えます)
- ・ 田舎暮らし体験
- ・ 観光イベント企画

- ・観光振興の企画・立案
- ・クラフト
- ・病気なので、お手伝いはできません

問8. 豊浦町の観光の振興で一番期待したい点は何ですか



【その他の内訳】

- ・今の豊浦町にはありません
- ・人が増加する施策化
- ・分からない
- ・福祉、福利を充実し、若い人が定住する

問9. 日頃、豊浦町の観光で感じていることやご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・噴火湾をめぐる遊覧船みたいのがあったらよい。魚介類がもっと手軽に食べられる場所が欲しい。道の駅の品ぞろえがもっと増えて欲しい（手土産にできる、日持ちのするもの）（20 歳代、女性、大岸地区、医療・福祉）
- ・アピールポイントが足りないように感じます。ほかの市町村でも行っていることが多く、個性が足りない。客を呼び込む魅力的な食べ物や産業が必要。（60 歳代、男性、農林業）
- ・静か。静かさをアピールしているかと思うくらいです（笑）。いちごや豚肉（いちぶた祭り）のキャラクターとかホタテマンだけでなく、人が好きになってくれる、集まってくれることも意識して。（20 歳代、女性、商業・サービス業）
- ・観光でないかもしれないが、豊浦町の祭りやほかのイベントなど小さい物をまとめて一つにして大きくやること（70 歳代以上、女性、北部地区、主婦_夫）
- ・観光ばかりに力を入れてますが、豊浦町にはスーパーひとつもまく、セイコーマートやセブンイレブン、ニコットでは限られたものしかなく、皆、町外に買物に行く状態です。豊浦町の店には何もうるおいがあるわけでもなし。一体、町は何を考え、優先順位が違うのではないか。町民が困っているのに、観光うんぬんというのはおかしい。もっと豊浦町の住民のことを考えて欲しい。お金の使い道を考えたらどうか。（40 歳代、女性、本町地区、無職）

- ・小幌駅にこだわりすぎている。(60歳代、男性、本町地区、無職)
- ・観光客に来てもらうことも必要だが、町民ファーストでお願いしたいです。特に豊浦町で長年頑張っていて働き、支えてきてくれた高齢者。やまびこの夕食時間が早かったり、インフルエンザの時期には来訪者に全く会えなかったり、外出が出来なかったり。この時代に合ったやり方に変えて欲しい。(40歳代、女性、北部地区、主婦_夫)
- ・老害が多く保守的である。面倒くさがり、改善がとても遅い。(50歳代、男性、北部地区、商業・サービス業)
- ・今の豊浦町は店は何軒しかないが、虻田や他で災害があったとしても、豊浦町に人口が増えても多分何もできないし、今、住んでいる人たちの生活にも支障が出ているのをわかっているのをわかっているのでしょうか。(50歳代、女性、本町地区、製造業・建設業)
- ・観光している人っているのでしょうか？小幌駅はマニアか「駅に行くぞー！」って気持ちがある人しか行かない。豊浦に来てホタテを手軽に食べるところもないし(カキ小屋みたいな)、季節や天候に関係なく観光できるものもない。観光でにぎわうと、私たちが住みやすい町になるのでしょうか？ずっと住み続けられる街になりますか？(40歳代、女性、本町地区、医療・福祉)
- ・いまいち見所に欠ける。今、小幌駅が鉄道マニアの間で人気が出て、一般の人にも浸透してきている。小幌駅だけでとどめるのではなく、他の見所も連携して「豊浦に旅する」という人を増やしていけたら良いのと思う。泊まるとなるとしおさいの他に宿泊施設があると良いと思う。(洞爺に流れてしまう)(30歳代、女性、北部地区、農林業)
- ・ラジオなどでもっと数日前から教えてくださったら良いと思う。町民の一人ひとりが、町が栄えるよう意識することが大事かと思う。(60歳代、女性、本町地区、その他)
- ・全国的な知名度が低い。メディアを利用して豊浦町の良さ、特においしい食べ物を全国にアピールして欲しい。(50歳代、女性、本町地区、公務員)
- ・雪、インディアン水車、シャケ釣り、オジロワシ、これらは秋から冬の体験型の観光になるのでは？(60歳代、男性、本町地区、製造業・建設業)
- ・多額の資金を投じて、施設等を作った後のメンテナンスが悪い。(50歳代、女性、礼文華地区、医療・福祉)
- ・食を観光の目玉にする。漁港や市場を見学できるものに整備する。フィッシャーマンズワープのようなおしゃれな飲食店(小規模で何軒か集まったストリート)を作る。海産物主体のレストランやテイクアウトが出来る店を集める。ご当地メニューを開発して飲食に供する(豚肉、いちご)(60歳代、男性、北部地区、製造業・建設業)
- ・本気で働き、動く、観光協会の人材！(50歳代、男性、本町地区、商業・サービス業)
- ・道の駅、しおさいで働いている方々が、楽しそうに働いていないように見えます。立派な接客の研修も必要でしょうが、笑顔での対応が一番だと感じます。道内外の観光地、特に豊浦規模の田舎の場合、温かい人柄が伝わってきます。町内の人に伝わっていると思いますが、町外の人に伝わっているか？と感じます。(50歳代、女性、大岸地区、会社員)
- ・ゴミが多い(50歳代、男性、大岸地区、会社員)
- ・今は魅力が感じなく、期待感が無い。(60歳代、男性、本町地区、商業・サービス業)

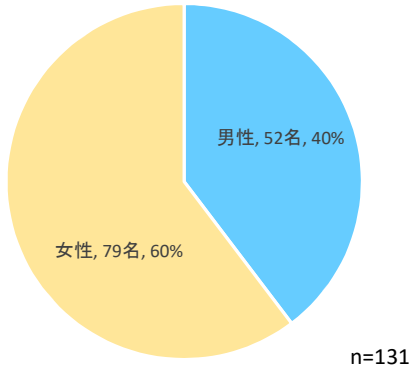
- ・季節ごとの観光スポットがほしい。春は桜並木、夏はキャンプ場、秋はシャケ釣り、紅葉のライトアップ、冬はイルミネーションなど、他では見れない特別なスポットが欲しいです。お金を掛けて整備しないとお客さんは来ないと思う。(40歳代、女性、本町地区、医療・福祉)
- ・「すいしゃ」等、本当に必要なものなのか疑問。それなら道の駅を充実させた方が良い。道の駅に食堂があったりと改善できることは無いのかと思う。時代は内を必要としているのかを考えて、初期投資はかかるかもしれないが、冬期も利用できるドックランや子供が遊べる施設など、近隣の市町村にない物をつくる必要がある。(40歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・街並みの整備、道路と歩道が広がっただけで、家は建たず、空き地ばかり。歩道は傷がついたり、空き地は雑草が目立ちます。キャンプなどで、人が来ても買い物をする場所が少なく不便に感じていると聞きます。(60歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・特産物の加工品がない(陶器の生産性の向上)。冬場の観光振興策が不十分(観光の閑散期はどう乗り切るのか)。地元、土着人の育成・活用が不十分(歴史・文化・観光の掘り起こし)(60歳代、男性、本町地区、公務員)
- ・買物する場が少なすぎる。バスがあっても、人付き合いが苦手な人は使わない。(20歳代、女性、本町地区、無職)
- ・キャンプに来ている人たちが、徒歩で買い物できるスーパーがない(50歳代、男性、本町地区、会社員)
- ・観光地づくりに無くて、ホッとできるのが豊浦の良さだが、今のままだと自然淘汰されるのも事実。コアになる人材、施設を放っておかず、仕事と結びつけながら維持できるようにするのが大切だと思う。(40歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・考え方の視野がとても狭く排他的である限り、魅力ある観光、町の発展は難しいと思います(50歳代、女性、本町地区、)
- ・自然があり、川もあるので、山を利用したトレイルランコースを作り、大会を開く！(60歳代、男性、本町地区、無職)
- ・食い処が色々ありますが、単独では今一つインパクトが足りない。海から船で美しい海岸を見て、小幌にも行け、カムイシャチにも登り、美味しいホタテや豚肉も食べられるなど、色々組み合わせを考え、もっと宣伝しては！ 地元で長年いても知らない所、行かれない所もあります。(60歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・いちぶた祭りの時、道路が毎回とんでもない渋滞になってしまうのを何とか改善できないものでしょうか？年に1回のことだし、それだけ人が集まってきているという事だから、改善の使用がないかもしれませんが、もう少しスムーズにいけるようになると、町外から来てくれた方のストレスも少なく済んで、より楽しく参加できるのではと思います。(30歳代、女性、本町地区、公務員)
- ・一度は行ってみたいと思う人はいると思うが、寄り道でしかないと思う(50歳代、女性、本町地区、医療・福祉)
- ・東雲山村広場は国道から近く、立地条件がすごく良い場所になる公園だと思います。グラウンドの所など、観光で活用出来るのではないかなあとと思います。子育て世代としては魅力的な遊具があると町外からも人が集まり、公園の少ない豊浦町民としてもありがたいなあと思います。(30

歳代、女性、本町地区、公務員)

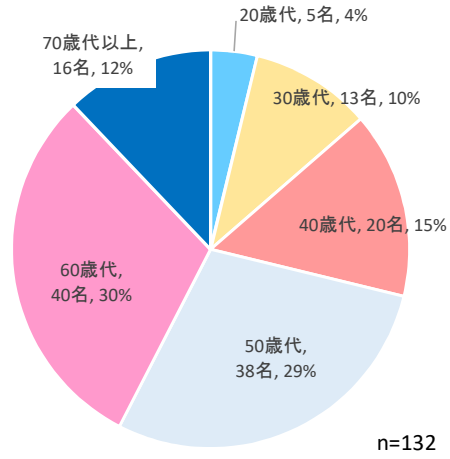
- ・観光で人が町に入れば、お土産や泊りでお金が落ちる。そのためには知恵を出し合って頑張れば町が潤う。(60歳代、男性、本町地区、水産業)
- ・キレイに整備された駅前通り。バス同士のすれ違いが出来れば良いと思う。(50歳代、男性、本町地区、会社員)
- ・鮭釣りに多くの人 coming いるようなので、釣りの環境を整えたらどうでしょう。トイレが閉まっ
ていて、その辺で用を足しているのを何度か見かけました。(60歳代、女性、本町地区、無職)
- ・果たして観光振興で人口は増えるのか？(60歳代、男性、本町地区、商業・サービス業)
- ・このアンケートの全体的に書いてある全てが豊浦には不足していると思います。知り合いに豊浦
ってなにもない町だねと言われたことがあります。(60歳代、女性、本町地区、主婦_夫)
- ・商店がない町が、何が観光だと思う。観光と同一に町民の生活が一番。(70歳代以上、男性、本
町地区、無職)
- ・一度見たら再び行くところが限られている。家族で楽しめる所が少ない。特に冬は室内で遊具
などがあって楽しめる所が欲しい。食事は遠くからでも食べにくるような一品が少ない。(60歳
代、女性、本町地区、無職)
- ・過疎化がどんどん進んでしまうことが心配。観光をすすめることも大事ですが、町民が生き生き
と何かに取り組むことができる、働く場所も大事ではないか。若者に魅力がある街にしないと、
今のままでは、観光でもうまくいかない。(50歳代、男性、本町地区、その他)
- ・まずは町民生活優先をお願いします。今の町内は活気が感じられず、とても淋しいです。歩いて
いる人さえもまばらで、そう思っている方も多いと思います。それをまずひとつずつクリアして
いきたい。そうすればおのずと町民の方々も積極的にまち起こしにも参加いただけるのではない
でしょうか？(50歳代、女性、本町地区、商業・サービス業)
- ・実際、それほど観光地っぽいところは行ってないので、あまり言うこともありません。ただ、
キャンプ場や温泉施設だけに頼っても客層は増えないと思います。アイドルを集客に利用したら
どーでしょう。(40歳代、男性、北部地区、無職)
- ・観光も大事ですが、町にスーパーがないと買い物ができないため、大変困っております「特に高
齢者」です。よろしく願い致します。(70歳代以上、女性、本町地区、無職)
- ・豊浦町に人が来ても買い物をするところがないのに、案内のしょうがないと思う。そんな所に観
光名所を作っても意味がないと思います。(60歳代、女性、本町地区、自営業)

属 性

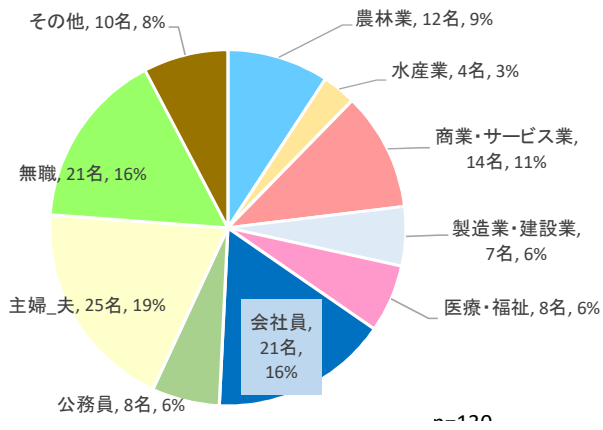
性別



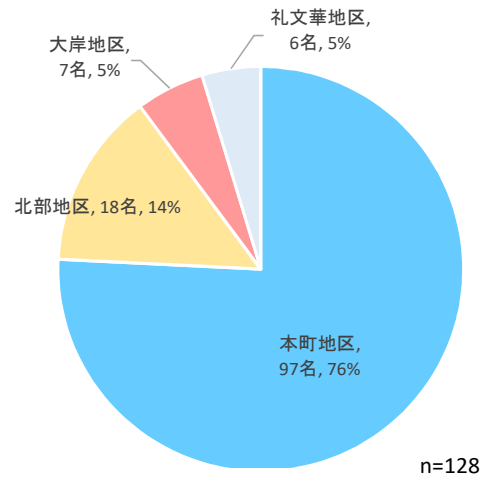
年齢



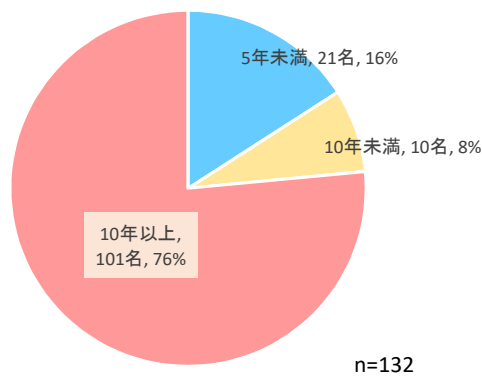
職業



居住地区



居住歴



資料2. とようらいちご豚肉まつり参加者アンケート調査

(1) アンケート調査票

いちご豚肉まつり来場の皆さまへ
豊浦町の観光についてのアンケート調査

【調査実施機関】豊浦町

※該当する項目に☑をつけてください。()がある回答は記入をお願いします。

問1. どちらから来られましたか。

道内() 市町村) 道外() 都府県)

問2. 「いちご豚肉まつり」が開催されることを何から見聞きして知りましたか。(複数回答可)

テレビ 新聞 ラジオ 雑誌 豊浦町のホームページ
 インターネット(サイト名:) SNS・ブログ チラシ
 家族・友人・知人から その他()

問3. 豊浦町まではどのような交通機関を利用しましたか。(複数回答可)

自家用車 JR(鉄道) 路線バス(都市間高速バスを含む) 観光ツアーバス 貸切バス
 タクシー レンタカー バイク 自転車 その他()

問4. 豊浦町と「いちご豚肉まつり」の訪問は今回を含めて何回目ですか。

豊浦町の訪問: 初めて 2回目 3回目 4回目 5回目以上
いちご豚肉まつり: 初めて 2回目 3回目 4回目 5回目以上

問5. 「いちご豚肉まつり」では、お一人いくら位のお金を使いました。または使う予定ですか。

(同行の方を含めてまとめて支払っている場合は、一人当たりの金額を記入してください)

お一人当たり() 円)

問6. 「いちご豚肉まつり」の満足度はどの程度でしたか。

非常に満足 満足 どちらともいえない やや不満 不満

問7. 今後、また「いちご豚肉まつり」に来たいと思いますか。

必ず来たい 来たい どちらともいえない 来ない

問8. 「いちご豚肉まつり」以外に豊浦町内で立ち寄る予定の施設等がありますか。

ある(具体的に) ない

問9. 最後に、あなた自身についてお答えください。(町外の方のみ)

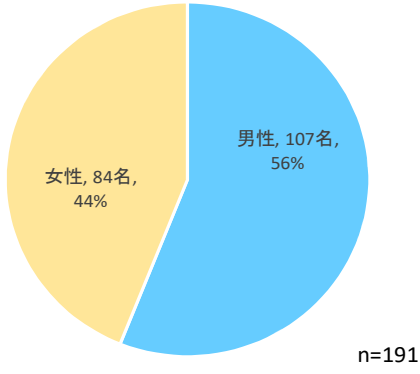
(1)性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
(2)年齢	<input type="checkbox"/> 10歳代 <input type="checkbox"/> 20歳代 <input type="checkbox"/> 30歳代 <input type="checkbox"/> 40歳代 <input type="checkbox"/> 50歳代 <input type="checkbox"/> 60歳代 <input type="checkbox"/> 70歳代以上
(3)同行者 (いくつでも)	<input type="checkbox"/> 自分ひとり <input type="checkbox"/> 夫婦・パートナー <input type="checkbox"/> 家族(子供連れ) <input type="checkbox"/> 友人・知人と <input type="checkbox"/> 地域やサークルの団体 <input type="checkbox"/> 仕事・職場関係 <input type="checkbox"/> その他()
(4)同行人数	自分も含めて() 人)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

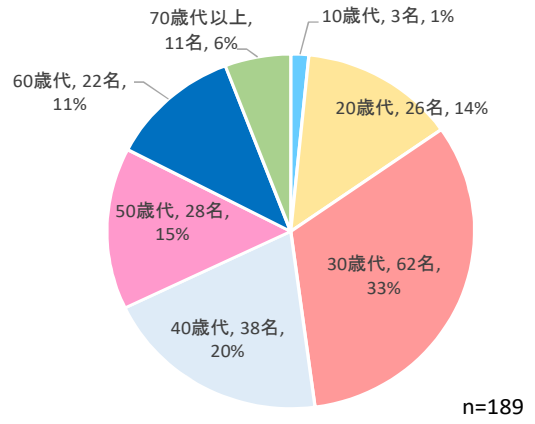
(2) アンケート結果

(1) 属性

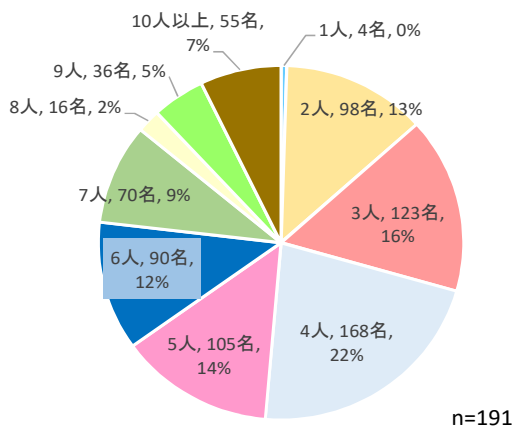
性別



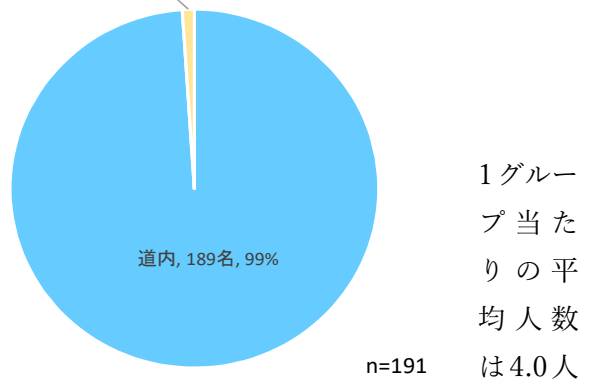
年齢



同行人数

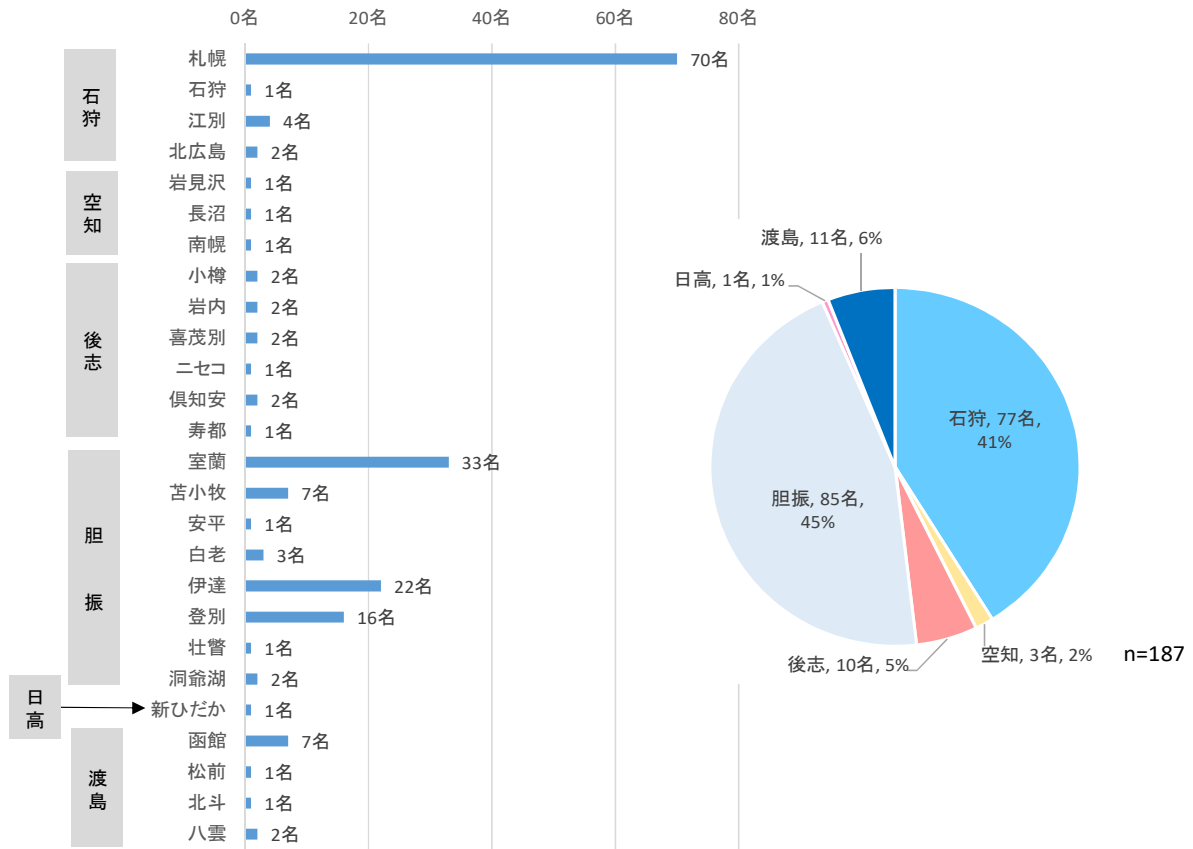


道外



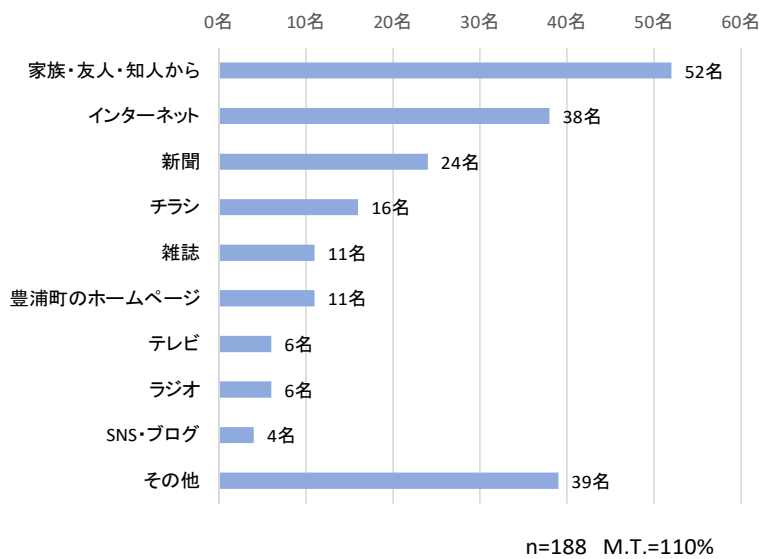
居住地

【道内内訳】



【道外内訳】 東京都 1名、兵庫県 1名

「いちご豚肉まつり」が開催されることを何から見聞きして知ったか



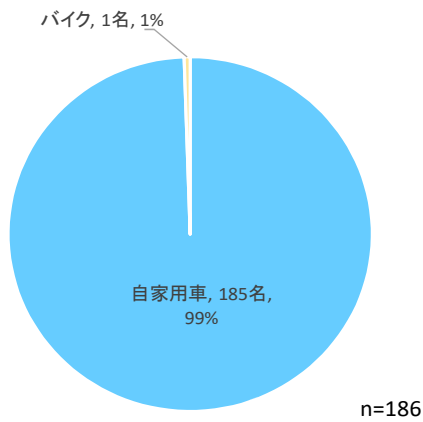
【インターネットサイト名内訳】

じゃらん3名、検索エンジン1名、公式HP1名、北海道新聞1名

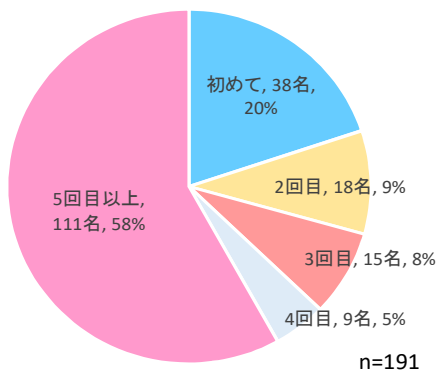
【その他の内訳】

以前から知っていた18名、毎年
来ている6名、通りすがり3
名、白老牛肉まつりで知った2
名、以前豊浦に住んでいた1
名、ロコミ1名、妻の実家が豊
浦1名、町内で工作中1名、天
然豊浦温泉しおさいで知った1
名

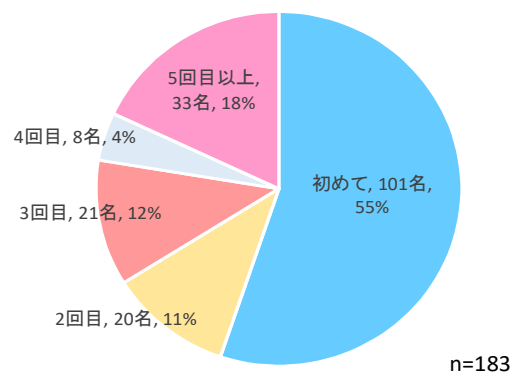
豊浦町までの利用交通機関



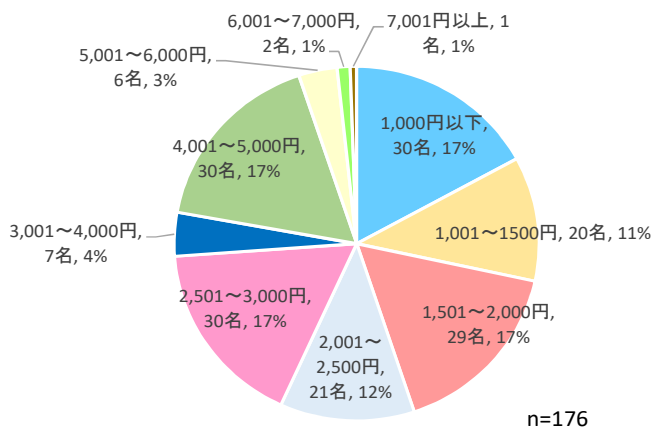
豊浦町への来訪回数



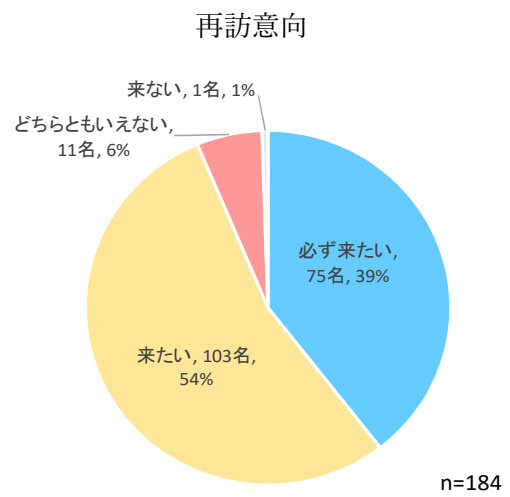
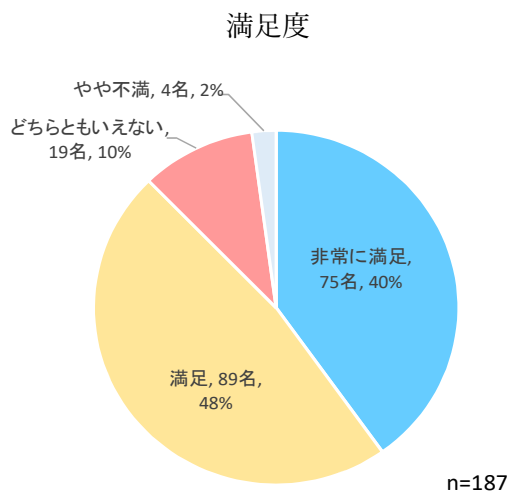
いちご豚肉まつりへの来訪回数



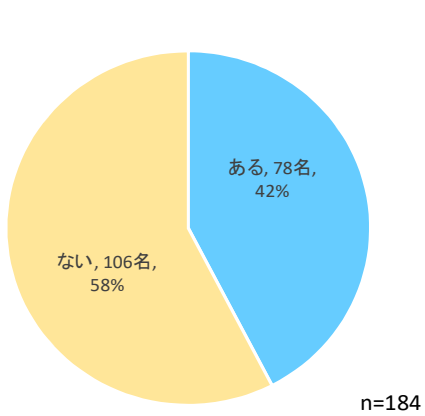
いちご豚肉まつりでの一人当たり消費額



一人当たり平均消費額は 2,794 円



いちご豚肉まつり以外の豊浦町内での立ち寄り先



【立ち寄り先の内訳】

